

令和7年度
教育委員会の事務に関する点検・評価報告書
(令和6年度 事務対象)

令和7年8月
三田市教育委員会

目 次

I 点検・評価制度の概要

- 1 点検・評価の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4 方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

II 令和6年度三田市教育委員会の活動状況

- 1 教育委員会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 教育委員会の主な活動内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ① 教育委員会会議
 - ② 教育委員の主な活動（令和6年度実績）

III 前年度の点検・評価委員の意見に対する令和6年度 of 取組・・・・・・・・・・ 5

IV 令和6年度三田市教育委員会の主な施策・事業の取組実績の点検・評価

- 1 『さんだっ子かがやき教育プラン』に基づく教育施策の推進・・・・・・・・ 7
- 2 『さんだっ子かがやき教育プラン』施策の体系・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 『さんだっ子かがやき教育プラン』5年間の目標に対する実績一覧・・・・・・・・ 9
- 4 『さんだっ子かがやき教育プラン』令和6年度施策・事業の取組【個票】・・・・ 12

V 点検・評価委員の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103

VI 参考資料

- 1 教育委員会会議（議案）の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115

I 点検・評価制度の概要

1 点検・評価の経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されております。

その地教行法の改正目的である「教育委員会の責任の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見を図りつつ、毎年、点検及び評価を行うとともに、その結果を議会へ報告し、公表することが義務づけられました。平成20年度より点検・評価を実施しております。

2 点検・評価の目的

教育委員会は首長から独立した立場で地域の教育に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村に設置されている行政委員会です。

その役割は、専門的な職員で構成される事務局を様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し、中立的な意思決定を行うものとされています。

教育委員会は毎月、重要事項を審議決定する教育委員会会議を開催するとともに教育施策に関する研修等を実施するなど、積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めているところです。

地教行法の改正目的に基づき、教育委員会の責任体制の明確化を図るとともに市民に三田市教育行政を周知し、理解を得て、市民協働による教育を展開するために点検・評価を実施するものです。

3 点検・評価の対象

評価の対象は、令和6年度に実施した下記の内容です。

①教育委員会の活動

②第3期さんだっ子がやき教育プラン（三田市教育振興基本計画）（以下、「第3期計画」という。）に基づく施策・事業

※市長部局が所管している事務については、対象外としますが、教育プランの進捗管理も兼ねているため、各所管の自己評価を記載しています。（各シート内に『★』のマークがあるもの）

4 方法

点検・評価にあたっては、教育委員会が所管している事務の自己評価に対して、客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者で構成する「三田市教育委員会点検・評価委員会」を開催し、評価及び意見をいただくものです。

氏名（敬称略）	区 分
西村 篤巳	校長経験者
齊藤 真理	社会教育経験者
下中 邦昭	P T A組織役員経験者

Ⅱ 令和6年度三田市教育委員会の活動状況

1 教育委員会の概要

【教育委員会制度の仕組み】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、政治的中立を確保し地域の実情にあった教育行政を行うことを目的として設置された行政委員会の一つであり、教育委員会の代表者である教育長と、4人の委員をもって構成される合議制の執行機関である。教育の政治的中立の立場から、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は教育長が3年、教育委員が4年となっている。

【三田市教育委員会の定数】

5人 ※根拠：地方教育行政の組織及び運営に関する法律

【三田市教育委員会（令和6年度）】

役職等	氏名	任期
教育長	鹿嶽 昌功	令和4年3月24日～令和7年3月23日（3期目）
教育長	加嶋 幸彦	令和7年3月24日～令和10年3月23日（1期目）
委員 (職務代理者)	大野 裕己	令和2年12月22日～令和6年12月21日（1期目） 令和3年12月26日～職務代理者
委員	中野 文雄	令和3年12月26日～令和7年12月25日（1期目）
委員	三木 尚美	令和4年12月25日～令和8年12月24日（2期目）
委員	中村 勇人	令和5年12月22日～令和6年6月30日
委員	ルーベッシュ 裕子	令和6年7月1日～令和9年12月21日（1期目）

2 教育委員会の主な活動内容

① 教育委員会会議

・教育委員会会議の開催回数

開催月	定例会	臨時会	協議会	開催月	定例会	臨時会	協議会
4月	1		1	10月	1		1
5月	1			11月	1		1
6月	1		1	12月	1		1
7月	1			1月	1		
8月	1		1	2月	1		1
9月	1		1	3月	1	1	1
				合計	12	1	9
				会議合計数			22

・令和6年度 議決の状況（参考：P99参考資料）

付議事項数	42件	{ <主なもの> 議会提出議案に関する意見 8件 教育委員会規則・規程の制定・改廃 7件 }
-------	-----	---

② 教育委員の主な活動（令和6年度実績）

【学校園行事・会議等への出席状況】

開催日	行事名等	場 所	備 考
4月8日 ～11日	入学式	3小学校・4中学校・1特別 支援学校・2県立高校	
4月15日	市町組合教育委員会教育長会議	兵庫県公館	
5月17日	認定こども園みつば幼稚園開園セ レモニー	みつば幼稚園	
5月16日	兵庫県市町村教育委員会連合会理 事会及び定時総会・全県教育委員 会研修会	イーグレ姫路	
5月18日	三田市人権を考える会総会	総合福祉保健センター	
5月22日 ～6月28日	学校訪問（春期）	10小学校・4中学校	
5月25日、 6月1日、 10月5日	小学校運動会	6小学校	
7月3日	令和7年度使用教科用図書採択に 係る内覧会	三田市役所南分館	
7月26日	校園長及び教育委員研修会	三田市役所南分館	
7月30日	阪神7市1町教育委員会連合会総 会及び研修会	宝塚市立東公民館	
8月17日	三田幸せプロジェクト～明るい未 来へ～	ウッディタウン市民センター 総合福祉保健センター	
8月22日 ～23日	全県夏季教育委員会研修会	ホテル北野プラザ六甲荘	
9月11日～ 10月10日	中学校体育大会	3中学校	
10月9日～ 11月20日	学校訪問（秋期）	10小学校・4中学校・1特別 支援学校	
9月20日～ 2月7日	小学校研究発表会	8小学校・1特別支援学校	
10月25日	中学校・特別支援学校文化祭	3中学校・1特別支援学校	
10月26日 ～11月23日	小学校音楽会	4小学校	
10月31日	阪神7市1町教育委員会連合会第 2回研修会	宝塚市立西公民館	
11月5日	中学校音楽会	郷の音ホール	
11月8日	小学校連合音楽会	郷の音ホール	

11月13日	近畿市町村教育委員会研修大会	オンライン	
11月15日	新任教育委員研修会	兵庫県立ひょうご女性交流館	
12月7日	人権と共生社会を考える市民のつどい	郷の音ホール	
1月28日	教育懇談会	けやき台小学校	
2月5日	阪神7市1町教育委員会連合会第3回研修会	宝塚市役所	
2月12日	教育長・教育委員と生涯学習審議会委員との意見交換会	三田市役所南分館	
2月18日	教育研究グループ研究交流会及び学校指導員研修会	総合福祉保健センター	
2月19日	総合教育会議	三田市役所本庁舎	
3月7日～ 3月22日	教育委員会感謝状贈呈式	3幼稚園・2小学校・	
3月14日、 24日	卒業式	4小学校・1中学校・1特別支援学校	
毎月	校長会への出席	三田市役所南分館等	毎月1回＋臨時会

Ⅲ 前年度の点検・評価委員からの意見に対する令和6年度取組

『課題に関する主な意見』と『意見に対する取組』

項目	点検・評価委員の意見	取組状況
「確かな学力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら課題を見つけ自分で計画を立てて勉強する」姿には若干課題がみられる。 ・学校司書未配置の学校については、図書館運営にかかる司書教諭の負担を危惧する。司書の増員及び学校司書の資質向上を目指す研修の実施、児童生徒の実態に合う図書室運営を期待する。 	<p>(教育研修所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう「学力向上指導改善プラン」で学習習慣の確立や自主学習の定着をかかげ、授業改善に資するために各種研修・講座を行っている。 ・学校司書に関しては、年7回の研修を継続し、選書や図書館便りの充実を図っている。令和6年度に中学校に1名の学校司書(2校兼務)を増員して配置できた。新規学校司書の資質向上の取組も進めている。
「豊かな心」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを受けたとき「相談しない」児童・生徒の数が微増し小・中共に1割を超えている点を懸念する。話しやすい先生や親・友達関係の構築と共に「いじめ110番」などを子どもたちに一層身近なものにすることが急務である。 ・在住外国人に対する7か国語の対応がなされている一方、日本語指導は不十分である。目の前の児童生徒の不安を払拭できるよう、支援に尽力されることを期待する。 	<p>(学校教育課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた支援を行えるよう、アンケートでいじめを受けたときに「相談しない」と回答した理由を再度アンケート調査し、相談先の周知等の支援につなげた。 ・生活適応や学習支援、心の安定を図るとともに、日本語指導の充実に向けて特別な教育課程の編成について、学校の実情に応じて推進していく。
一人一人が大切にされる教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の出現率がかつてないほど高くなっている。「子どものサポーター」「子どものこころの支援員」の全校配置、時間増を目指してほしい。 ・不登校児童生徒の半分近くが関係機関に相談支援を受けていない。あすなる教室ではメタバースの活用がきっかけとなって効果を上げていることから、メタバース等のオンラインツールを積極的に活用して支援をいき届かせてほしい。 	<p>(学校教育課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒等への支援の充実を目指し、中学校での「子どものサポーター」配置時間の拡充を行うとともに、小学校の「子どものこころの支援員」事業を「子どものサポーター」事業に統一し、配置校と配置時間の拡充を行った。 ・不登校児童生徒が専門的な相談・指導を受けられるよう推進し、各校への指導を行った。また、各校において校内サポートルーム(別室)で支援が行えるよう環境整備を進め、個に応じた支援を推進した。 ・相談支援として、簡易メタバースに代わり、生成AIを用いた対話機能の開発と実証に取り組むことができた。
信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールを活用するためにも、ICT支援員の増員、情報や教材の共有が容易に行えるシステムの充実を求める。 	<p>(教育研修所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員を令和6年度に2名増員し、5名体制となり、定期的に学校巡回訪問を実施し、学校や教員への支援を積極的に行

		<p>った。情報や教材の共有が容易に行えるよう教師用 iPad に教材等のリンク集の掲載を随時進めた。</p>
<p>学びを支える環境の整備</p>	<p>・給食センターの老朽化には、計画的に予算措置をして対策を講じてほしい。三田の給食の良さは子どもたちの誇りであり JA や農家さんと顔の見える関係が結べている。</p>	<p>(学校給食課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの老朽化に対して、施設、設備等の修繕計画の作成に着手した。予算要求に連動させるとともに、毎年見直しを行っていく。 ・地産地消に取り組む学校給食では、食育の一環として、生産者である農家を知り、関心を持つ取り組みを行っている。
	<p>・「ICT をほぼ毎日使う」と「ICT を使うのは勉強の役に立つ」子どもの割合が目標値よりかなり低い。ネットワーク環境の安定化に向けた対策実施に期待する。</p>	<p>(教育研修所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の効果的な活用を進めるため、学校や教員のニーズに対応した ICT 活用研修を複数講座実施した。ネットワーク環境の安定化に向け、児童数の多い2校でローカルブレイクアウト工事を実施した。

IV 令和6年度

三田市教育委員会の主な施策・事業の取組実績の点検・評価

1 「さんだっ子かがやき教育プラン」に基づく教育施策の推進

本市においては、平成24年10月に「第1期三田市教育振興基本計画～さんだっ子かがやき教育プラン～」(以下、「第1期計画」という。)、平成29年4月に「第2期三田市教育振興基本計画～さんだっ子かがやき教育プラン～」(以下、「第2期計画」という。)を策定し、「子どもの夢と未来が輝くまち さんだ」の実現をめざし、学校・家庭・地域の連携により教育施策を進めてきました。

令和4年4月からスタートした第3期計画においては、その成果と課題を検証し、これからの時代を担う子どもたちに身に付けてほしい資質・能力の育成に必要な施策を盛り込むとともに、第1期計画及び第2期計画の基本理念を発展させ、めざす子ども像を継承しつつ、新たな課題への取り組みや中期的に取り組む施策等を総合的かつ体系的に推進していく必要があることから、その実現に向けて、以下の3つの基本目標を定めています。

基本目標1 「生きる力」を育む教育を推進します

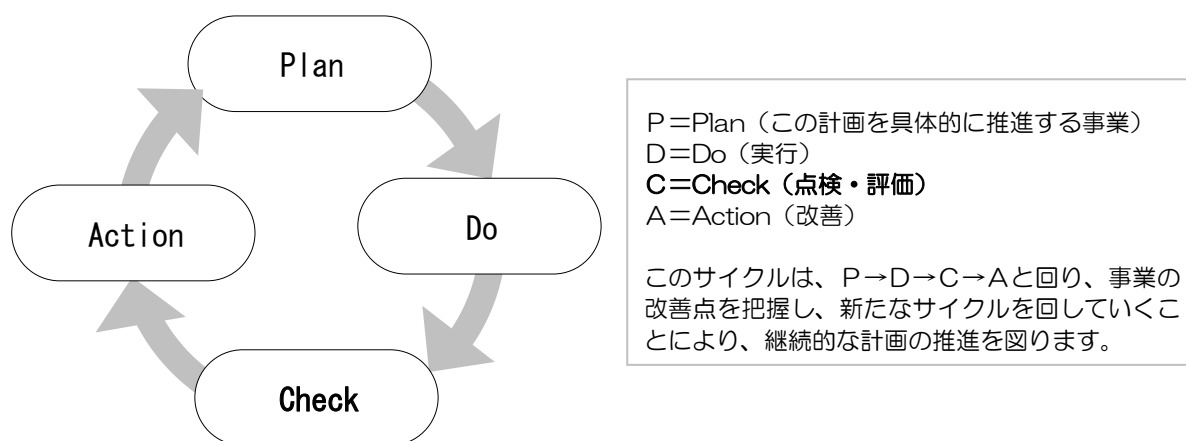
基本目標2 魅力ある学校をつくり家庭・地域と共に子どもの学びを支援します

基本目標3 学びを支える環境を整備します

この基本目標に沿った今後の市の教育の方向性や教育に関わる5年間の主な取組を第3期計画に記載しており、この計画に沿って教育施策を推進しています。

また、計画を効果的かつ着実に推進するために「PDCAサイクル」[計画(Plan)→実行(Do)→点検・評価(Check)→改善(Action)]を確立し、継続的に計画の進行管理を実施していきます。

この計画の進行管理にあたっては、計画の実施に向けた具体的な事業を毎年度策定する「三田の教育(指導の重点)」に反映させ、計画で設定した「5年間の目標」の指標や取組内容をもとに、事務事業の点検・評価を行い、その結果を踏まえて工夫・改善しながら計画の推進を図ります。この「Check」の部分が、今回の点検・評価にあたるものです。



2 「さんだっ子かがやき教育プラン」施策の体系

計画の体系

【基本理念】

夢を育て、人をはぐくむ学びのまち さんだ

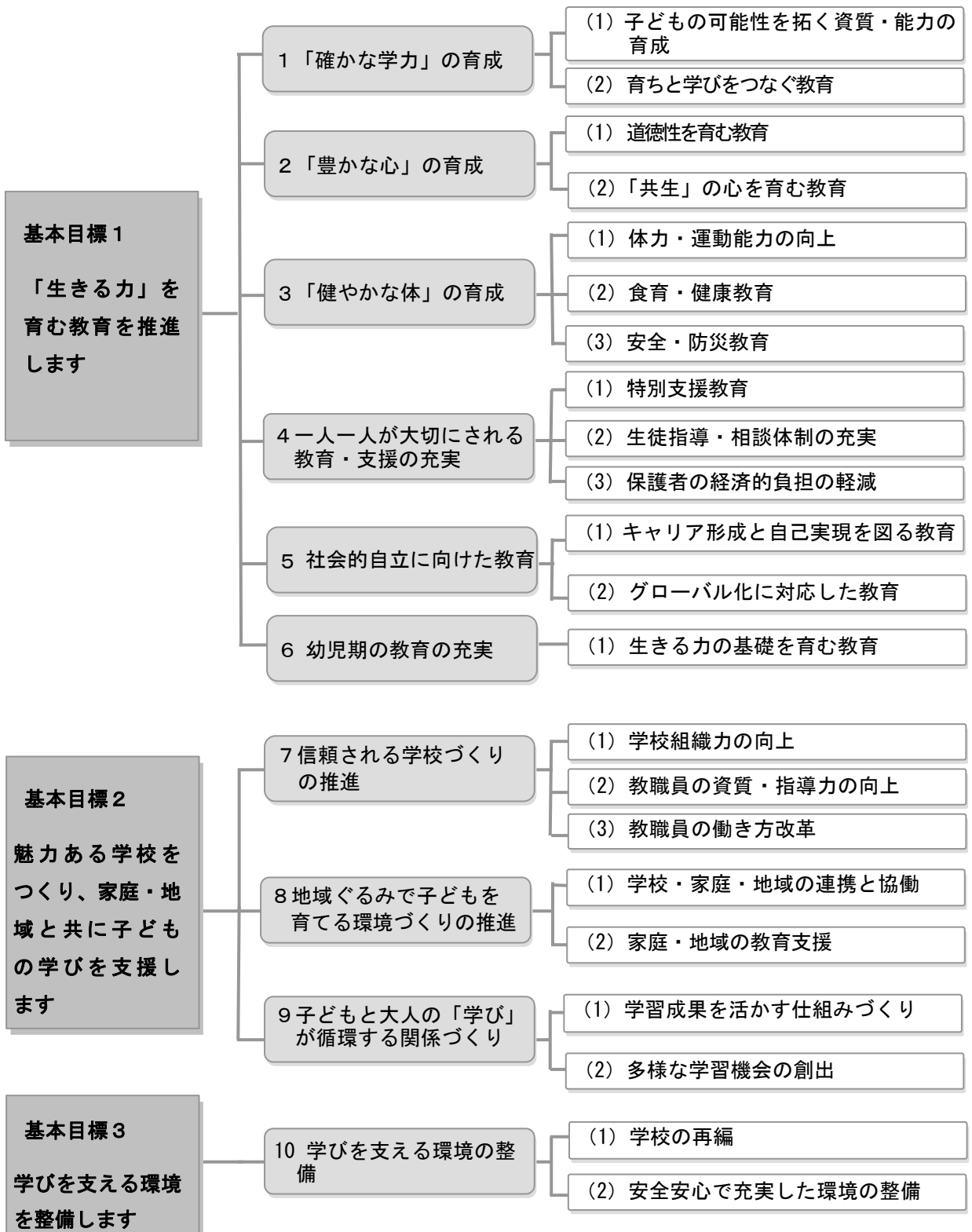
【めざす子ども像】

自分が好き、人が好き、このまちが好き、
夢に向かって歩むさんだっ子

【基本目標】

【基本施策】

【施策の方向性】



3『さんだっ子かがやき教育プラン』5年間の目標に対する実績一覧（令和6年度実績）

「◎」計画3年度目だが既に目標を達成している。
 「○」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調である（※目標進捗率90%以上）。
 「△」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が概ね順調である（同70%以上90%未満）。
 「▼」目標を達成しておらず、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調に進んでいない（同70%未満）。
 「×」目標は達成しておらず、目標設定時の現状を下回っている。
 「-」調査対象外
 ※目標進捗率…令和4年度から令和8年度（最終目標）までの5年間を均等分割して算出

1「確かな学力」の育成	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標（令和8年度）	進捗状況	該当する取組（個票）	掲載頁
全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較（全国学力・学習状況調査）	教育研修所	(小6)国語+5、算数+6 (中3)国語+5、数学+8	(小6)国語+3、算数+5 (中3)国語+6、数学+7	(小6)国語+1、算数+5 (中3)国語+3、数学+6			(小6)国語+1、算数+3 (中3)国語+3、数学+6 【令和3年度】	すべての教科において、+6ポイント以上	▼	1	16
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	教育研修所	(小6)80.3% (中3)78.2%	(小6)82.7% (中3)80.3%	(小6)86.2% (中3)79.5%			(小6)80.7% (中3)79.6% 【令和3年度】	(小6)83.0% (中3)82.0%	○	4	18
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	教育研修所	(小6)66.5% (中3)65.5%	(小6)69.0% (中3)65.0%	実施なし			(小6)71.2% (中3)73.0% 【令和3年度】	(小6)77.0% (中3)79.0%	-	5	19
「理科が好き」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	教育研修所	(小6)81.7% (中3)64.9%	実施なし	(小6)86.0% (中3)67.1%			(小6)86.0% (中3)61.3% 【平成30年度】	(小6)92.0% (中3)65.0%	○	6	20
2「豊かな心」の育成	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標（令和8年度）	進捗状況	該当する取組（個票）	掲載頁
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	教育研修所	(小6)73.6% (中3)78.0%	(小6)79.2% (中3)87.2%	(小6)85.8% (中3)92.4%			(小6)78.7% (中3)84.3% 【令和3年度】	(小6)85.0% (中3)87.0%	◎	11	25
「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時相談しない」と答える子どもの割合（「いじめに関する生活アンケート」調査）	学校教育課	(小6)10.3% (中3)9.1%	(小6)10.6% (中3)11.3%	(小6)13.3% (中3)11.0%			(小6)7% (中3)11% 【令和2年度】	(小6)0% (中3)0%	×	13	26
「人が困っているときは、進んで助けている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	学校教育課	(小6)91.1% (中3)88.6%	(小6)92.8% (中3)91.4%	(小6)95.2% (中3)92.0%			(小6)90.1% (中3)88.8% 【令和3年度】	(小6)92.0% (中3)90.0%	◎	14	27
「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	学校教育課	(小6)78.3% (中3)75.1%	(小6)85.8% (中3)81.7%	(小6)87.1% (中3)84.9%			(小6)80.7% (中3)76.5% 【令和3年度】	(小6)90.0% (中3)85.0%	○	15	28
3「健やかな体」の育成	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標（令和8年度）	進捗状況	該当する取組（個票）	掲載頁
「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）	教育研修所	(小5)94.1% (中2)85.6%	(小5)87.5% (中2)83.9%	(小5)90.9% (中2)84.3%			(小5)88.6% (中2)83.0% 【令和3年度】	(小5)93.0% (中2)88.0%	○	18	32
「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	学校教育課	(小6)96.5% (中3)92.6%	(小6)95.8% (中3)93.7%	(小6)96.1% (中3)92.3%			(小6)96.9% (中3)93.5% 【令和3年度】	(小6)98.0% (中3)96.0%	×	22	35
地場野菜利用率	学校給食課	28.6%	20.4%	25.0%			31.3% 【令和3年度】	35.0%	×	23	36

「◎」計画3年度目だが既に目標を達成している。
「○」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調である(※目標進捗率90%以上)。
「△」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が概ね順調である(同70%以上90%未満)。
「▼」目標を達成しておらず、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調に進んでいない(同70%未満)。
「×」目標は達成しておらず、目標設定時の現状を下回っている。
「―」調査対象外
※目標進捗率…令和4年度から令和8年度(最終目標)までの5年間を均等分割して算出

4 一人一人が大切にされる教育の充実	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
特別支援教育研修講座受講者数(年間延べ人数)	教育支援課	270人	296人	316人			131人【令和2年度】	320人	○	33	43
「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	学校教育課	(小6)97.8% (中3)97.0%	(小6)97.9% (中3)95.8%	(小6)97.6% (中3)97.1%			(小6)98.6% (中3)94.6%【令和3年度】	(小6)100% (中3)100%	▼	36	46
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合	学校教育課	65.3%	55.9%	66.8%			—	100%	▼	38	48
5 社会的自立に向けた教育の推進	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	学校教育課	(小6)79.2% (中3)66.7%	(小6)79.9% (中3)62.7%	(小6)83.3% (中3)64.2%			(小6)80.7% (中3)68.6%【令和3年度】	(小6)90.0% (中3)80.0%	▼	45	55
「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができている」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	実施なし	実施なし	実施なし			(小6)75.3% (中3)70.5%【令和3年度】	(小6)78.0% (中3)73.0%	—	51	60
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)54.5% (中3)43.4%	(小6)63.9% (中3)40.7%	実施なし			(小6)64.8% (中3)49.5%【令和3年度】	(小6)74.0% (中3)55.0%	—	53	62
6 幼児期の教育の充実	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
「幼稚園は子どもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合(学校評価アンケート)	幼児教育振興課	84.6%	88.8%	89.5%			84%【令和2年度】	90%	○	57	65
市立幼稚園の預かり保育の実施日の拡充	幼児教育振興課	週3日:全園	週3日:全園	週3日:全園			週3日:2園 週2日:7園 週1日:1園【令和2年度】	週5日:全園	○	60	67
7 信頼される学校づくりの推進	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上(月平均)の学校数	教育研修所	27校	26校	25校			22校【令和2年度】	小中特別支援学校全校	△	61	69
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合(三田市教育研修所に関するアンケート)	教育研修所	92.6%	99.2%	91.6%			98.6%【令和3年度】	85%	◎	66	72
教育研修所で研修した教職員数(年間延べ人数)※オンライン研修を含む	教育研修所	年間2,958人(内オンライン研修1,451人)	年間3,677人(内オンライン研修1,478人)	年間3,680人(内オンライン研修1,446人)			年間1,524人(内オンライン研修931人)【令和2年度】	年間2,000人	◎	67	73
教育研究グループの組織率	教育研修所	18.4%	17.8%	19.9%			全教職員の18.3%【令和3年度】	全教職員の20%以上	○	68	74

「◎」計画3年度目だが既に目標を達成している。
「○」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調である(※目標進捗率90%以上)。
「△」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が概ね順調である(同70%以上90%未満)。
「▼」目標を達成しておらず、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調に進んでいない(同70%未満)。
「×」目標は達成しておらず、目標設定時の現状を下回っている。
「-」調査対象外
※目標進捗率…令和4年度から令和8年度(最終目標)までの5年間を均等分割して算出

「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用することができる」と回答する教職員の割合(教職員のICT活用指導力チェックリスト【文部科学省】)	教育研修所	84.1%	88.7%	92.8%			83.4% 【令和2年度】	100%	○	69	75
ICT支援員の数	教育研修所	3人	3人	5人			3人 【令和2年度】	7人 (4校に1人)	△	71	77
8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
★学校支援ボランティアの年間延べ活動日数	子ども育成課	4,414日	4,984日	5,175日			2,608日 【令和2年度】	4,350日	◎	73	80
「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合(地域も学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査)	学校教育課	96.2%	97.2%	96.2%			91.7% 【令和元年度】	95.0%	◎	76	82
★放課後子ども教室の年間延べ開催日数	子ども育成課	1,355日	1,377日	1,401日			1,042日 【令和2年度】	2,040日	▼	79	84
9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
★こども未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数	子ども育成課	45人	36人	30人			-	200人	▼	89	91
★図書館見学及び移動図書館サービス(定期巡回以外)を利用した小中学校の数	文化スポーツ課	2校	3校	6校			1校 【令和2年度】	7校	○	93	94
★学校訪問コンサート(アウトリーチ活動)を利用した小学校	文化スポーツ課	19校	19校	20校			18校 【令和2年度】	小学校全校(20校)	◎	94	94
10 学びを支える環境の整備	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定時の現状	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	教育総務課	(女子)12.5人 (男子)19.6人	(女子)11.1人 (男子)17.1人	(女子)10.4人 (男子)15.9人			(女子)14.4人 (男子)20.8人 【令和3年度】	(女子)10人以下 (男子)20人以下	○	96	99
★こども110番の家年度末設置箇所数	子ども育成課	767箇所	767箇所	767箇所			882箇所 【令和2年度】	1,040箇所	×	99	101
「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをほぼ毎日使う」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)20.5% (中3)12.0%	(小6)22.7% (中3)40.7%	(小6)17.1% (中3)32.5%			(小6)10.3% (中3)5.8% 【令和3年度】	小学校・中学校ともに90.0%	▼	100	101
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)70.2% (中3)58.3%	(小6)67.8% (中3)60.2%	実施なし			(小6)71.1% (中3)64.2% 【令和3年度】	(小6)90.0% (中3)85.0%	-	100	102

『★』のマークがあるものは、市長部局が所管している事務

4 『さんだっ子かがやき教育プラン』 令和6年度施策・事業の取組 (個 票)

※取組項目に『★』のマークがあるものは、市長部局が所管している事務

PDCAサイクル		
サイクル	記載項目	記載箇所・状況等
Plan	取組内容	基本計画 P【○頁】
Do	R6年度指導の重点【○頁】	具体的取組【D1】
	特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】
Check	R6年度指導の重点【○頁】	評価【C1】
	課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】
Action	R8に向けた取組・改善策等	課題についての対策(案)【A】

①	R6指導の重点における「具体的取組【D1】」に対する「評価【C1】」を行う。	
	「評価【C1】」は次の5段階で内部評価する。	
②	◎ 具体的取組が目標達成に大きく貢献した。	
	○ 具体的取組が目標達成に想定どおり貢献した。	
	△ 具体的取組が目標達成には期待していたよりも貢献しなかった。	
	× 具体的取組を実行したが課題山積であった。	
	－ 具体的取組を実行しなかった。	
	「評価【C1】」により次の区分に分析・記載する。	記載箇所
③	◎ 特筆すべき取組・特筆すべき取組内容(成果)	【D2】
	○	
	△ 課題等・上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)	【C2】、【A】及び期待効果
	× R8に向けた取組・改善策等・課題についての対策(案)	
	－	

4 『さんだっ子かがやき教育プラン』令和6年度施策・事業の取組(個票)【目次】

基本施策1 「確かな学力」の育成		担当課	掲載頁
(1) 子どもの可能性を拓く資質・能力の育成			
1	「学力向上指導改善プラン」の実践	教育研修所	15
2	授業改善の促進	教育研修所	16
3	個別最適な学びと協働的な学びの充実	教育研修所	17
4	学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実	教育研修所	17
5	「ひとり学びへの手引き」の活用	教育研修所	18
6	理科教育の推進	教育研修所	19
7	読書活動の推進	教育研修所・文化スポーツ課	20
(2) 育ちと学びをつなぐ教育の推進			
8	小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進	教育研修所	21
9	小中一貫した教育の推進	学校教育課	22
10	学校園所接続の推進	学校教育課・幼児教育振興課・保育振興課	22
基本施策2 「豊かな心」の育成		担当課	掲載頁
(1) 道徳性を育む教育			
11	道徳科を要とした道徳教育の推進	教育研修所	24
12	家庭や地域と連携した道徳教育の推進	教育研修所	25
(2) 「共生」の心を育む教育			
13	人権教育の充実	学校教育課	26
14	福祉教育の推進	学校教育課	27
15	多文化共生教育の充実	学校教育課	28
16	帰国・外国人児童生徒への支援	学校教育課	29
基本施策3 「健やかな体」の育成		担当課	掲載頁
(1) 体力・運動能力の向上			
17	★市立幼稚園における「しなやかな体と心づくり」の推進	幼児教育振興課	30
18	体力向上の取組の推進	教育研修所	31
19	★レベルの高い競技会等の開催と交流の機会づくり	文化スポーツ課	32
20	★スポーツを通じたコミュニケーションの機会づくり	文化スポーツ課	32
21	★地域スポーツ活動を通じたまちづくり	文化スポーツ課	33
(2) 食育・健康教育			
22	食育の推進	学校教育課・学校給食課	34
23	地産地消の推進	学校給食課	35
24	学校給食の安全・安心の確保	学校給食課	36
25	学校給食の異物混入未然防止	学校給食課	36
26	感染症予防のための能力・態度の育成	学校教育課	37
27	健康教育の充実	学校教育課	38
(3) 安全・防災教育			
28	安全教育の充実	学校教育課	39
29	防災・減災教育の充実	学校教育課	39
30	生命(いのち)を大切にする教育の推進	学校教育課	40
基本施策4 一人一人が大切にされる教育の充実		担当課	掲載頁
(1) 特別支援教育			
31	就学前から卒業後までを見通した個別の指導計画等の作成と活用	教育支援課	41
32	特別支援教育相談の充実	教育支援課・幼児教育振興課	42
33	特別支援教育研修の充実	教育支援課	42
34	通常の学級における指導・支援の充実	教育支援課	43
35	共に生きる教育の推進	教育支援課	44
(2) 生徒指導・相談体制の充実			
36	生徒指導の充実	学校教育課	45
37	教育相談の充実	学校教育課	47
38	不登校対策の充実	学校教育課	47
39	スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進	学校教育課	49
40	福祉部局と連携した効果的な支援	学校教育課・教育支援課	49
(3) 保護者の経済的負担の軽減			
41	就学援助費及び高等学校等入学支援金の支給	教育支援課	51
42	遠距離通園・通学費の補助	教育支援課・幼児教育振興課	52
43	特別支援教育就学奨励費の支給	教育支援課	52
基本施策5 社会的自立に向けた教育の推進		担当課	掲載頁
(1) キャリア形成と自己実現を図る教育			
44	キャリア教育推進体制の整備	学校教育課	54
45	キャリアノート、キャリア・パスポートの活用	学校教育課	54
46	キャリア教育に関わる体験活動の充実	学校教育課・教育研修所	55
47	家庭・地域と連携・協働したキャリア教育の推進	学校教育課	56
48	環境教育を通じた問題解決能力の育成	教育研修所	56
49	部活動による個性の伸長	学校教育課	57
(2) グローバル化に対応した教育			
50	国際理解教育推進	学校教育課	59
51	外国語(英語)教育の推進	教育研修所	59
52	伝統や文化に関する教育の推進	教育研修所	61
53	「ふるさと学習」の充実	教育研修所	61
54	地域のよさを活かした体験教育の推進	教育研修所・学校教育課	62

基本施策6 幼児期の教育の充実		担当課	掲載頁
(1) 生きる力の基礎を育む教育			
55	★市立幼稚園再編の推進	幼児教育振興課	63
56	★幼児教育に係る教職員研修の充実	幼児教育振興課・保育振興課	63
57	★市立幼稚園指定研究事業の推進	幼児教育振興課	64
58	★幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続	幼児教育振興課	65
59	★市立幼稚園の子育て支援の推進	幼児教育振興課	66
60	★市立幼稚園の預かり保育の充実	幼児教育振興課	67
基本施策7 信頼される学校づくりの推進		担当課	掲載頁
(1) 学校組織力の向上			
61	開かれた学校園所づくりの推進	教育研修所・学校教育課・幼児教育振興課	68
62	学校評価を活用した教育活動の改善推進	学校教育課・幼児教育振興課	69
63	学校組織運営の改善	教育総務課	69
64	教育委員会と学校の連携強化	教育総務課・学校教育課	70
(2) 教職員の資質・指導力の向上			
65	教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立	教育総務課	71
66	教育研修所機能の充実	教育研修所	71
67	教職員研修の推進	教育研修所	73
68	教育研究グループ活動の充実	教育研修所	74
69	ICTを活用した指導力の向上	教育研修所	74
(3) 教職員の働き方改革			
70	勤務時間適正化の推進	教育総務課	76
71	校務におけるデジタル技術の活用推進	教育研修所	77
72	教職員のメンタルヘルスの保持増進	教育総務課	78
基本施策8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり		担当課	掲載頁
(1) 学校・家庭・地域の連携と協働			
73	★学校・家庭・地域の連携による事業の推進	子ども育成課	79
74	コミュニティ・スクールの充実	学校教育課	80
75	PTA活動の支援	学校教育課	81
76	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進	学校教育課	81
77	★子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進	子ども育成課	82
78	余裕教室の活用	教育総務課	82
79	★新・放課後子ども総合プランの推進	子ども育成課	83
(2) 家庭・地域の教育支援			
80	★家庭教育学級の充実	子ども育成課	85
81	★子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充	子ども家庭課、子ども政策課	85
82	★青少年相談の充実	子ども育成課	86
83	★世代間交流活動の支援	子ども政策課	87
84	★子どもの人権やいのちの大切さの啓発	人権共生推進課	87
85	★人権に関する研修や学習機会の充実	人権共生推進課	88
基本施策9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり		担当課	掲載頁
(1) 学習成果を活かす仕組みづくり			
86	★子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用	文化スポーツ課	89
87	★子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材育成の推進	文化スポーツ課	89
88	★三田の自然を学び、活用するジュニアスタッフの育成	文化スポーツ課	90
(2) 多様な学習機会の創出			
89	★「こうみん未来塾」の推進	子ども育成課	91
90	★地域の伝統文化の継承の推進	文化スポーツ課	92
91	★歴史資料を活用した体験学習の推進	文化スポーツ課	92
92	★有馬富士自然学習センターを活用した学校教育支援	文化スポーツ課	93
93	★図書館を通じた「学び」の支援の推進	文化スポーツ課	93
94	★総合文化センターでの文化芸術の普及・育成の推進	文化スポーツ課	94
基本施策10 学びを支える環境の整備		担当課	掲載頁
(1) 学校の再編			
95	小中学校再編の推進	学校再編課・学校教育課	96
(2) 安全安心で充実した環境の整備			
96	学校施設の整備・充実	教育総務課・幼児教育振興課	98
97	学校給食施設等の整備・充実	学校給食課	99
98	学校園安全体制の充実	教育総務課・危機管理課・幼児教育振興課	99
99	登下校時の安全確保	教育総務課・危機管理課・子ども育成課	100
100	ICT機器やデジタル教材の整備・充実	教育研修所	101

基本施策 1 「確かな学力」の育成

(1) 子どもの可能性を拓く資質・能力の育成

子どもたちが、基礎的な知識・技能を習得するとともに、習得した知識・技能と既存の知識を組み合わせ、社会における様々な場面で主体的に判断し、他者と協働して課題を解決していくことができる力を育成します。各教科等の指導に当たっては、デジタル技術を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進します。

また、全国学力・学習状況調査の結果分析等を基に、各校の子どもたちの学びの実現状況を把握し、教職員の指導改善につなげることやアプリを活用した、個人のスタディ・ログ（学習履歴や学習評価、学習到達度）の蓄積や把握による個別最適な学びを支援するとともに、協働的な学びの実現を図ることにより、確かな学力を育みます。

【主な取組】

1	「学力向上指導改善プラン」の実践		担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【21頁】	全国学力・学習状況調査の調査結果や子どもの日々の学習や生活の状況に基づき、各学校が「学力向上指導改善プラン」を策定し、カリキュラム・マネジメントの充実と指導改善に向けた取組を実践する。				
全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較（全国学力・学習状況調査）					
結果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小6国語	実施なし	+1P	+5P	+3P	+1P
小6算数		+3P	+6P	+5P	+5P
中3国語		+3P	+5P	+6P	+3P
中3数学		+6P	+8P	+7P	+6P
注記	三田市と全国との差を±で表記				
R6指導の 重点 【5頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	学力向上事業(三田市学力向上推進委員会を設置し、全国学力・学習状況調査の結果概要作成とHP公開)		○
	2	継続	各校における全国学力・学習状況調査の分析とそれに基づく学力向上指導改善プランの策定と実施		◎
	3	継続	カリキュラム・マネジメントの充実と指導改善に向けた研究推進担当者会の実施		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	全国学力・学習状況調査結果の分析で明らかとなった本市の傾向と学びのポイントについて整理し、結果概要としてHPに公開できた。			
	2	各校が全国学力・学習状況調査の分析とそれに基づく学力向上指導改善プランの策定を行い、授業改善や自主学習の定着に取り組んだ。			

	3	研究推進担当者を集めた研修を行い、カリキュラム・マネジメントを意識した教科横断的な学びの実践について理解を深めた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
	指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
	全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較 (全国学力・学習状況調査)	小6国語+1P 小6算数+5P 中3国語+3P 中3数学+6P	すべての教科において、+6ポイント以上	▼

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

2	授業改善の促進		担当課	教育研修所	
関連	5 7 市立幼稚園指定研究事業の推進（幼児教育振興課）				
取組内容 基本計画 P【21頁】	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るとともに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連づけて理解するなどの学習を展開することで、新しい時代に必要な資質・能力を育成する。				
指定研究 校等	令和2年度 12校	令和3年度 12校	令和4年度 13校	令和5年度 12校	令和6年度 13校
R6指導の 重点 【6頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	ICT機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の開発		○
	2	継続	探究的な学習の充実による問題発見・解決能力、情報活用能力の育成		○
	3	継続	「三田少年少女柿の実詩集」の作成や読書活動と関連付けた学習の充実などによる全ての学習の基盤となる言語能力を育成		○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	全ての学校で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究に取り組んだ。			
	2	探究的な学習の充実を重視した研究に取り組む学校数が昨年度より増加した。			
	3	くらしや自然・文化など感じたことを詩や俳句、短歌に表し、言葉で表現する楽しさを味わう取組を行い、言語能力の育成をめざした。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				

改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】				期待効果

3	個別最適な学びと協働的な学びの充実	担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【21頁】	従前からの授業方法にデジタル技術を組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、児童生徒が自ら問いをもち、他者との対話を通し、課題解決に向かう学習の充実を図る。				
小学校3年生以上を対象とした「情報モラル教室」実施校					
情報モラル 教室実施	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	8小学校	20小学校	20小学校	18小学校	19小学校
R6指導の 重点 【6頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	基盤的なツールとなるICTを活用し、個々の特性等に あった学習の充実		○
	2	継続	クラウド環境を利用した共同編集、授業支援ソフト等 を活用した双方向のやりとりを取り入れた協働する 学習活動の推進		○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	デジタル教科書や総合学習アプリを活用し、個別最適な学びの実現に向けた学 習の充実に向けた指導を進めた。			
	2	総合学習アプリや汎用ツールを活用して、共同編集の授業開発に取り組んでい る。総合学習アプリで他者参照を行うことにより、他者の意見を参考にしたり、 協働する学習に取り組んだ。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果

4	学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実	担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【21頁】	朝の学習タイムやひょうごがんばり学びタイム等の実施により、兵庫型学習シス テム推進教員や地域人材等を活用し、補充学習及び発展学習の充実を図る。また、 授業におけるデジタル技術活用を推進し、一人一人の興味関心や学習状況に応じ て、主体的に学習を進め、個別最適な学びを充実する。				
ひょうごがんばり学びタイム実施校数					
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	15校	17校	17校	18校	18校
中学校	8校	8校	8校	7校	7校
実施時間	1,992時間	2,364.5時間	1,891.5時間	1,523.5時間	1832.5時間
延参加者	12,050人	14,778人	11,821人	7,473人	10,879人
R6指導の	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】

重点 【6頁】	1	継続	学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実	○
	2	継続	がんばり学びタイム（地域人材を活用したひょうご学び支援事業）の実施	○
	3	継続	学習アプリを活用した個々の学習の習熟度に応じた課題の実施	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	同室複数指導等、授業形態の多様化とグループ学習の支援活動を進められた。		
	2	地域人材を活用し、個別最適な学習を充実させている。		
課題等	3	AI 機能搭載デジタルドリルの活用で、習熟度に応じた課題が出題され、個々の学習に応じた取組を進めている。		
	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)		(小6) 86.2% (中3) 79.5%	(小6) 83.0% (中3) 82.0%	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

5	「ひとり学びへの手引き」の活用		担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【21頁】	「ひとり学びへの手引き」等を活用し、小学校6年生時に身に付けておくべき「学び方」について、段階を踏みながら育成を図る。また、デジタル技術を含め、学びに必要な学習方法を子どもたちが主体的に選択し、自分らしい学び方を模索する資質・能力を養う。				
「家で自分で計画を立てて勉強している」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小6	実施なし	71.2%	66.5%	69.0%	実施なし
中3		73.0%	65.5%	65.0%	
R5指導の 重点 【6頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
1	継続	「ひとり学びへの手引き」の活用(児童生徒 iPad や職員用 iPad で閲覧、家庭学習や授業で活用)			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	iPad が学習ツールとして定着してきた中で、「ひとり学びへの手引き」の活用がよりしやすくなった。学習活動において「ひとり学びへの手引き」を参考に			

	して、自分に合ったまとめ方や発表の方法等の学習方法を選択し取り組む姿が見られた。また、家庭学習においても自主学習の参考にするなど、活用の幅が広がっている。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果
	指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)
	「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 実施なし (中3) 実施なし	(小6) 77.0% (中3) 79.0%
			進捗 状況
			—

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「—」調査対象外

6	理科教育の推進	担当課	教育研修所
取組内容 基本計画 P【21頁】	問題解決の力を養うため、観察・実験、ものづくり等の体験的な学習活動を充実する。有馬富士自然学習センターや人と自然の博物館と連携し、教職員の理科教育に対する指導力向上を図るとともに、子どもが科学の素晴らしさや楽しさを体験する機会を充実する。		
	「理科が好き」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）		
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小6	実施なし	実施なし	81.7%
中3			64.9%
	令和5年度	令和6年度	
	実施なし		86.0%
			67.1%
R6 指導の 重点 【6頁】	種別	具体的取組【D1】	
	1 継続	こうみん未来塾（さんだサイエンスフェスティバルに出展）	
	2 継続	三田市小・中学校理科・生活科作品奨励事業	
		評価【C1】	
		○	
		○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	さんだサイエンスフェスティバルに三田市立学校小・中学校理科・生活科作品展における優秀作品を展示し、多くの来館者が作品を見学していた。	
	2	子ども達の理科に対する興味関心を高め、自然事象に対する興味関心や科学的思考力の向上に貢献した。表彰式は人と自然の博物館コレクションナリウムにて開催した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「理科が好き」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 86.0% (中3) 67.1%	(小6) 92.0% (中3) 65.0%	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

7	読書活動の推進	担当課	教育研修所・文化スポーツ課		
取組内容 基本計画 P【21頁】	「さんだっ子読書通帳」や「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」の取組を推進するとともに、学校司書と教職員が連携し、学校図書館の活用を推進する。また、市立図書館と連携した取組を進めるとともに、ブックトークやビブリオバトルを通して、子どもの豊かな読書活動を充実する。				
学校図書館で100冊以上本を借りた児童生徒数(「読書賞」受賞者数)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	387人	700人	784人	1,092人	1,203人
「読書が好き」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小6	実施なし	設問なし	74.8%	73.3%	設問なし
中3			67.8%	67.2%	
R6指導の 重点 【7頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」の推進		○
	2	継続	さんだっ子読書通帳の配布と活用(紙と電子対応)		△
	3	継続	三田市子どもの読書活動推進計画(第4次)(R6~R11)に基づいた指標により経過把握し、充実を図る。		○
	4	継続	学校司書配置事業(専門的な知識・経験を有する学校司書配置〔小学校20校配置、中学校2校配置〕)		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	毎月23日は、家庭学習に読書活動を継続して取り組んだ。			
	3	指針に応じて、アンケートで経年経過を検証し推進を進めている。			
	4	新規学校司書の資質向上の取組も進めている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
	2	発達段階に応じて1人1台端末を活用した電子版読書通帳の導入及び効果について検討する必要がある。			
改善策等 (R8向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果
	2	1人1台端末を活用した電子版読書通帳の作成、紙媒体の読書通帳との併用試行を進める。			読書好きの児童・生徒の増加

(2) 育ちと学びをつなぐ教育

保幼・小・中の期間を見通し、幼児期の教育と小学校教育、さらには中学校教育の円滑な接続が図れるよう子どもの育ちと学びの連続性を重視した教育を進めます。

特に、小学校入学当初においては幼児期に遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定するなど、指導の工夫や指導計画を工夫します。

【主な取組】

8	小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進			担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【22頁】	教職員の専門性を活かした学力向上、多面的な児童理解や開かれた学級づくり、中学校への円滑な持続等、個に応じた多様な教育を推進するため、小学校高学年における専科指導・教科担任制に取り組む。					
優先教科における専科・教科担任制導入状況【人】						
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
外国語	2	4	6	8	9	
理科	—	—	9	11	15	
算数	—	—	3	3	5	
体育	—	—	—	—	—	
合計	3	4	18	22	29	
R6 指導の 重点 【7頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1	継続	兵庫型学習システムの教科担任加配の配置による専門性の高い教科学習と指導体制の充実の推進			○
	2	継続	学級担任の交換授業等を組み合わせ、国が指定した教科担任制の優先教科（外国語・理科・算数・体育）の指導の充実			○
	3	新規	学校の実情に応じたきめ細やかな指導の充実のため、基礎定数の教員を工夫して活用する。			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	該当教科の免許状保有者や指導経験が一定年数以上ある専門性の高い教員による授業が行われている。				
	2	学級担任による交換授業等により他の学級の児童に積極的に関わることで、多面的な児童理解につながっている。				
	3	学校の実情に応じて、高学年だけでなく、中学年でも教科担任制の充実が図られている。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果	

9	小中一貫した教育の推進	担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【22頁】	<p>各中学校区において、学校・家庭・地域がめざす子ども像を共有するとともに、校区内の学校間で学習方法等を共有し、指導の一貫性、系統性、連続性を図り、小学校卒業から中学校入学に向けて円滑な接続を図る。</p> <p>さらに、義務教育9年間にわたる長期的な視点に立って、児童生徒の資質能力を育成するとともに、児童生徒の学習上のつまずきや生活上の課題に対してきめ細かな指導を行うための教育課程編成に関する研究を進める。</p>			
R6 指導の 重点 【7頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	小中合同の授業研究、研修会の実施等による「指導の一貫性」、「学びの連続性」の実現に向けた各中学校区での連携の推進	○
	2	継続	小中一貫カリキュラム等を活用した教育課程編成に関する研究	○
	3	継続	小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	各中学校区においてめざす子ども像を設定し、校区の推進計画に基づいた取組を推進した。		
	2	小学校の教科書改訂に伴い、各中学校に小学校の使用教科書を配付し、カリキュラムの研究に取り組めるようにした。また、担当者研修会で「わかりあい そろえて続けて つなぐ 小中一貫教育」と題した講演を実施し、各中学校区での実践につながる内容となるように工夫した。		
	3	兵庫型学習システムを活用し、積極的な専科指導や教科担任制の導入を推進した。また、市内で先進的な取組についての実践発表の場を設定した。		
課題等	上記具体的施策に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

10	学校園所接続の推進	担当課	学校教育課・幼児教育振興課・保育振興課	
取組内容 基本計画 P【22頁】	<p>各中学校区で保育・授業参観、連絡会等の開催、出前授業や合同授業等を通して、情報交換や子どもの育ちと学びを教職員同士が理解共有するなど、子どもの連続した育ちと学びを支援できるよう学校園所間の接続を図る。</p>			
R6 指導の 重点 【8頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	学校園所の連携の推進	○
	2	継続	学校園所連携推進に係る「中学校区連絡会」や研修会の開催	○
	3	継続	県事業「令和5・6年度幼児期と児童期の円滑な接続推進事業」の実施	○

	4	継続	「さんだっ子かがやきカリキュラム～保幼・小接続編～」（三田市教育委員会）の活用と見直し	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		計画的な学校園所の連携を推進した。	
	2		各中学校区で中学校区連絡会や合同研修会等を開催し、学校園所連携を推進した。各中学校区に成果と課題を明らかにすることができた。	
	3		県事業「幼児期と児童期の円滑な接続推進事業」において、三輪幼稚園と三輪小学校で連携・協働して幼児期と児童期の接続の推進に取り組んだ。また、三輪小学校で開催された「令和6年度幼児期と児童期の円滑な接続推進研修会」に各校の担当者が参加し、幼児期から児童期の接続についての理解を深めるとともに、その内容を市内に啓発できた。	
	4		「さんだっ子かがやきカリキュラム～保幼・小接続編～」（三田市教育委員会）の積極的な活用を啓発した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

基本施策 2 「豊かな心」の育成

(1) 道徳性を育む教育

子どもたちの規範意識、自尊感情、主体的に判断し適切に行動する力を育むため、家庭・地域と連携した道徳教育を推進します。

【主な取組】

1 1	道徳科を要とした道徳教育の推進		担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【26頁】	道徳教育推進教師を中心に、全教育活動における道徳教育の推進と、その要となる道徳科における教職員の授業力の向上を図るとともに、「兵庫版道徳教育副読本」等を活用するなど、授業の充実を図る。					
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
小6	新規指標	78.7%	73.6%	79.2%	85.8%	
中3		84.3%	78.0%	87.2%	92.4%	
道徳教育推進教職員を対象とした道徳教育研修会受講者数						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	30人	34人	28人	30人	32人	
R6 指導 の重点 【9頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1	継続	主たる教材である教科書に併せ、兵庫版道徳教育副読本や地域教材等、子どもたちに適した教材の活用			○
	2	継続	市指定研究事業「特別指定（特別の教科「道徳）」の実施			○
	3	継続	カリキュラムセンターの活用			△
	4	継続	道徳教育推進教師研修会の開催			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	全小中学校において、教科書に併せ、兵庫版道徳教育副読本を年間計画に位置付け活用した。				
	2	市指定研究として学園小学校にて道徳教育研究発表会を実施。市内小学校の教員が参加し、研究成果を共有した。				
	4	関西学院大学教授に講演・演習を依頼し、道徳教育研修会を開催した。各学校の道徳教育推進教師と希望する教員が参加し、道徳科の授業を構築する力量を高め、その専門性を養うことで、道徳教育の更なる充実を図った。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					
	3	カリキュラムセンターの活用が少なかった。				
改善策等	課題についての対策（案）【A】				期待効果	

(R8 向)	3	カリキュラムセンターとしての機能を整理し、利便性向上を図る。	教員による活用の増加	
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)		(小6) 85.8% (中3) 92.4%	(小6) 85.0% (中3) 87.0%	◎

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

1 2	家庭や地域と連携した道徳教育の推進		担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【26頁】	授業参観やオープンスクールなどの機会を捉え、道徳科の授業を公開し、学校における道徳教育について家庭や地域の理解を得るとともに、積極的な連携を図る。				
道徳科の授業公開実施校数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	10校	10校	20校	20校	20校
中学校	1校	2校	2校	7校	8校
R6指導の 重点 【9頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	授業参観やオープンスクール等による道徳科の授業公開			◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	全ての小中学校で道徳科の授業を授業参観日やオープンスクールなどで公開し、道徳教育について家庭や地域との連携を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果

(2)「共生」の心を育む教育

人権に関する理解と人権感覚の涵養を基盤に自他の人権を守り、人権課題の主体的解決に向けた教育の推進に取り組みます。

国籍や民族の違いを認め合い、共によりよく生きようとする心情や態度を育成するための学習や交流機会の充実を図ります。

13	人権教育の充実		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【27頁】	「三田市人権を尊重し多様性を認め合う共生社会を目指す条例」を踏まえ、教育活動全体を通して、学校・家庭・地域と連携しながら人権教育を推進するとともに、人権意識の高揚や指導力向上につながる教職員研修を実施する。				
人権教育担当者研修会受講者数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	53人	64人	27人	29人	29人
R6指導の 重点 【10頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	人権教育の充実		○
	2	継続	人権教育担当教員等研修会の開催		○
	3	継続	児童生徒支援教員の配置（県事業）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	各校における計画的な人権教育を推進した。			
	2	人権教育担当教員を対象に、外国人児童生徒等教育基本方針について周知した。また、部落差別問題等を取り上げた講演会を行い、教職員が当事者意識を持つことの大切さを再確認した。			
	3	配置校において、児童生徒支援教員を中心に、支援が必要な児童生徒に対して個別の指導や相談・家庭訪問等を行い、支援の充実を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
指 標			実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時相談しない」と答える子どもの割合 (「いじめに関する生活アンケート」調査)			(小6) 13.3% (中3) 11.0%	(小6) 0% (中3) 0%	×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

14	福祉教育の推進	担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【28頁】	高齢者や障害のある人等を含むすべての人々が、地域の中で、自分らしく生活できる環境づくりの大切さを学ぶことができるよう障害者差別解消法や三田市みんなの手話言語条例、三田市障害者共生条例等の趣旨を踏まえ、体験等を交えながら福祉教育を推進する。			
R6 指導の 重点 【10頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	手話学習の推進	○
	2	継続	体験活動の実施	○
	3	継続	社会福祉協議会等との連携による福祉教育の推進	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	各学校の実情に応じて、総合的な学習の時間等を通して手話学習を実施できた。		
	2	アイマスク体験や車いす体験等、社会福祉協議会のプログラムを積極的に利用し、体験活動を進めることができた。		
	3	社会福祉協議会と連携し、体験活動や講演会を実施し、ゲストティーチャーを招いた学習等に取り組むことができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「人が困っているときは、進んで助けている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)		(小6) 95.2% (中3) 92.0%	(小6) 92.0% (中3) 90.0%	◎

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

15	多文化共生教育の充実		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【28頁】	すべての子どもが、国籍や民族の「違い」を認め合い、多様な文化や価値観を受容・尊重して、共に生きようとする意欲や態度を育てる。				
外国人等をゲストティーチャーとして招いた授業実践校					
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	3校	3校	4校	8校	5校
中学校	0校	2校	1校	3校	2校
R6指導の 重点 【10頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	国際理解教育担当者会の開催		○
	2	継続	多文化 WAIWAI 親子デイキャンプの開催		○
	3	継続	三田市在住外国人教育推進委員会の開催		○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	国際理解教育担当者及び希望者を対象に研修会を実施し、25人が研修会に参加した。三田市外国人児童生徒等教育基本方針の改定内容について周知するとともに、三田市で発生した事案等から本市の課題等について協議し、今後のめざす方向性を共有することができた。			
	2	三田市研究グループ国際理解教育部会と連携し、従来のデイキャンプから世界の国の料理づくり体験と試食に内容を変更して「多文化 WAIWAI 親子デイキャンプ」を開催した。9家族、計50名が参加し、多様な文化を体験した。			
	3	三田市在住外国人教育基本方針改訂後の取組内容を定める事ができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
指 標			実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)			(小6) 87.1% (中3) 84.9%	(小6) 90.0% (中3) 85.0%	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

16	帰国・外国人児童生徒への支援		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【28頁】	県の子ども多文化共生サポーターや市の外国人語学指導員の配置により、外国人児童生徒等への母語による学習支援や心のケア、日本語指導を充実させ、自己実現を支援する。				
多文化共生サポーター（県費）の派遣状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	4回（1校）	31回（1校）	112回（4校）	116回（3校）	153回（2校）
中学校	27回（1校）	37回（1校）	36回（1校）	20回（2校）	93回（2校）
外国人語学指導員（市費）の派遣状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	88回（3校）	91回（4校）	90回（3校）	95回（4校）	118回（5校）
中学校	16回（2校）	55回（3校）	54回（4校）	45回（2校）	109回（2校）
R6指導の 重点 【10頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	帰国・外国人児童生徒への支援 「子ども多文化共生サポーターの活用（県事業）」		○
	2	拡大	三田市外国人語学指導員の派遣		○
	3	継続	国際理解教育推進事業		○
	4	継続	ボランティアティーチャーの派遣		○
	5	継続	在日外国人学校就学補助金		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	来日間もない外国人児童生徒の母語支援員確保のため、兵庫県と速やかに連携し、子ども多文化共生サポーターを配置することができた。			
	2	三田市外国人語学指導員の予算拡充により、これまで支援が十分に行き届いていなかった外国人児童生徒等への支援が充実した。また、語学指導員の給与の単価を上げたことにより、県のサポーターからの継続派遣ができた。一方で、希少言語の語学指導員の確保ができていない実態もある。			
	3	実践記録集の各校への配布、民族楽器、民族衣装、民族玩具等の貸し出し等を通して、多文化との豊かな出会いの機会の創出を推進した。			
	4	外国の方をゲストティーチャーとして招き、子どもたちとの交流の機会を持つことができた。			
	5	予算措置はしていたが、実施希望なしであった。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

基本施策 3 「健やかな体」の育成

(1) 体力・運動能力の向上

生涯にわたり、心身共に健康で活力ある生活を送るために、体育の授業の充実を図るとともに、学校生活全般において、児童生徒の体力や運動能力の向上に向けた取組を行います。

また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等を踏まえ、子どもの体力・運動能力の向上に向けた取組とともに、学校と連携した地域スポーツ活動を支援します。

子どもたちがスポーツを通じて、夢や希望をもてるよう仲間づくりや交流の機会の充実のほか、プロスポーツ、全国レベルの大会など、トップレベルのアスリートにふれることでスポーツ・運動に関心の高い子どもを育てます。

【主な取組】

17	★市立幼稚園における「しなやかな体と心づくり」の推進		担当課	幼児教育振興課	
取組内容 基本計画 P【31頁】	芝生園庭や「わくわく体操」を基盤に、友だちと一緒に取り組む中で、多様な体の動きを習得するとともに、自分なりの目標をもって取り組もうとする意欲を高め、達成感を味わうなど、「しなやかな体と心」を育む。				
「わくわく体操」実施状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	10園	10園	10園	9園(1園休園)	8園(1園休園)
芝生園庭の状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	10園	10園	10園	10園	7園
R6 指導の 重点 【11頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	「幼児期運動指針ガイドブック」の活用		○
	2	継続	市立幼稚園における「わくわく体操」の推進		◎
	3	継続	芝生園庭を活用した運動遊びの充実		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	幼児期に必要な動きや運動経験等、保育内容に取り入れることができた。			
	2	継続的な取り組みにより、多様な体の動きや体づくりにつながっている。			
	3	裸足で伸び伸びと遊び、体づくりや土踏まずの形成につながっている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果

18	体力向上の取組の推進		担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【31頁】	「さんだっ子元気アッププログラム」の取組を推進するとともに、小学校の体育授業時に専門性に優れたサポーターを派遣し、体力・運動能力の向上をめざす。また、体育授業だけでなく、「キッピー体操」など、日常生活における体力向上の取組を推進する。					
「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
小5	実施なし	88.6%	94.1%	87.5%	90.9%	
中2		83.0%	85.6%	83.9%	84.3%	
R6 指導 の重点 【11頁】		種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施（文部科学省）及び分析			○
	2	継続	中学校体力向上推進事業「さんだっ子元気アップサポーター派遣」（中学校2校、1回4時間×3回）			▼
	3	継続	小学校体体育成事業「体力・運動能力サポーター派遣事業」（小学校12校：児童対象1日4時間×3回、職員対象1日4時間×1回）			◎
	4	拡大	水泳事業「水泳授業民間施設利用委託事業」水泳授業を近隣のスポーツ施設で行い、専門指導員から泳法を学ぶ（8校）			◎
	5	継続	体力アップサポーターの活用（県事業）			◎
	6	継続	キッピー体操の実施			△
	7	継続	キッピー体操動画をタブレット端末にて、視聴できるようにアイコンを常駐			◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	体力・運動能力等の実態把握に努めるとともに、各校において体育授業の改善にデータを活用している。				
	3	小学校12校に対して、運動の専門指導員を派遣し、児童が質の高い技術指導を受ける機会を設けた。				
	4	小学校8校が水泳授業民間施設利用委託事業を実施し、民間屋内プールと指導員のある環境での水泳授業を行った。				
	5	運動の専門指導員を派遣し、児童が質の高い技術指導を受ける機会を設けた。				
	7	いつでも、どこでも児童生徒が自ら体操できる環境をつくっている。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					
	2	運動の専門指導員による授業実施を進める必要がある。				
	6	積極的な活用を促す必要がある。				
改善策等	課題についての対策（案）【A】					期待効果

(R8 向)	2	中学校校長会、体育担当管理職との連携を進め、小学校におけるサポーター派遣の効果等も周知することにより、積極的な活用を進める。	生徒の運動能力の向上	
	6	1人1台端末にインストールしていることを再周知し、活用を促す。	運動能力の向上	
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)		(小5) 90.9% (中2) 84.3%	(小5) 93.0% (中2) 88.0%	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

19	★レベルの高い競技会等の開催と交流の機会づくり		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【31頁】	トップアスリート等とふれ合う機会を設け、子どもたちに「夢や希望」をもってスポーツに取り組む意欲の向上を図るスポーツ「夢」プロジェクトを進める。				
トップアスリートとの交流やプロスポーツ大会の観戦等児童・生徒数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	1回	0回	1回	2回	1回
R6指導の 重点 【12頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	スポーツ「夢」プロジェクト等の推進（トップアスリートとの交流やプロのスポーツ大会を間近で見ることなどスポーツを通して子どもたちに夢や感動を与える）		
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	日本サッカー協会の協力により「夢プロジェクト」として、元サッカー選手を招き、トークなど実施。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

20	★スポーツを通じたコミュニケーションの機会づくり		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画	「三田市スポーツ推進基本計画」に基づき、地域のスポーツ団体を通じて、仲間づくりや子どもの健康・体力づくり、競技者の育成等を進めるとともに、地域の				

P【31頁】	スポーツ活動での部活動の補完や連携を進め地域スポーツの推進に取り組む。		
R6 指導の 重点 【12頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	スポーツクラブ 21 の支援（地域スポーツクラブ活動の支援と連携強化を図るなど、子どもから高齢者まで地域住民同士の多世代交流により取り組む）	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	今後のクラブ間連携強化などを推進するためミーティングを実施。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

2 1	★地域スポーツ活動を通じたまちづくり	担当課	文化スポーツ課		
取組内容 基本計画 P【31頁】	子どもの体力向上やスポーツに親しむ機会につなげるため、各種スポーツ教室や体験講座等に関する情報提供を一層推進し、参加者の増加を図る。				
スポーツ教室の実施状況					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
教室数	5 種目	4 種目	5 種目	6 種目	7 種目
R6 指導の 重点 【12頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	スポーツ教室等の開催（市民スポーツ教室の実施など子どもを対象としたスポーツに親しむ機会の充実）			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	年々教室数が増加し、参加者も増加傾向。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

(2) 食育・健康教育

子どもたちが食事の大切さ、喜び、楽しさを知ること、心身の成長や健康の保持増進を図るとともに、食に関する正しい知識の習得と望ましい食習慣の形成につながるよう学校・家庭・地域と連携しながら、様々な食育の取組を推進します。

また、食べ残しなどの問題や食が多くの人に支えられていることを通して、食から環境を考えることは、食に関心をもち、食に対する感謝や食文化等を含めた食の大切さを知る機会となります。健全な食生活を実践することができるよう家庭や地域、関係機関と連携を図りながら、食育や学校給食（地産地消）を通じた心身の健康の保持増進を推進します。

新型コロナウイルス感染症の対応経験を踏まえ、未知のウイルスについても想定し、感染症予防のための指導やアレルギー疾患への対応について、引き続き研修や対応マニュアルを充実するとともに、教職員のアレルギー知識の周知、学校園所での感染症対策の向上、徹底を図ります。さらに、家庭・地域と連携した学校保健活動を推進し、生涯にわたる健康の基礎を培う健康教育の充実を推進します。

【主な取組】

22	食育の推進		担当課			学校教育課・学校給食課
取組内容 基本計画 P【32 頁】	「三田市の学校・園における食育推進計画」に基づき、学校・園における食育を体系的に推進する。また、三田の食の魅力を発見し、食に対する関心を高めるため、「食べチャオさんだ！」を合言葉に郷の恵みへの感謝の心や望ましい食習慣等、食を通じた健やかな体の育成を図る。					
「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
小6	実施なし	96.9%	96.5%	95.8%	96.1%	
中3		93.5%	92.6%	93.7%	92.3%	
R6 指導 の重点 【13頁】	種別	具体的取組【D1】				評価【C1】
	1	継続	給食時間の食育指導の実施			○
	2	継続	食に関する作品の募集			○
	3	継続	食育イベント（食育展示等）の実施			○
	4	継続	給食センター見学会の開催			○
	5	継続	給食試食会の開催			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	学校園からの要請を受け、食育に関する幅広い知見をもとに栄養教諭が指導を行った。				
	2	学校園の食育活動や食に関する絵手紙の応募作品、「さんだのご当地給食の開発・子ども会議」報告などを展示し、食育啓発を図った。				

	3	令和5年4月「三田市学校給食のあり方について（答申）」での提言を受け、「さんだのご当地給食」の開発を湊川短期大学の協力のもとに公募の児童・保護者（19名）で行った。		
	4	学校園からの見学受入に応え、栄養教諭や調理師が施設の案内や学校給食ができるまでについて児童に分かりやすく説明した。		
	5	PTA 試食会実施時に栄養教諭から三田市の学校給食と食育についての講話を実施した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果	
	指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
	「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6) 96.1% (中3) 92.3%	(小6) 98.0% (中3) 96.0%	×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

23	地産地消の推進	担当課	学校給食課			
取組内容 基本計画 P【32 頁】	市内の農産物や食文化への関心を高めるため、JA 学校給食部会の協力のもと、三田の特産品や地場野菜を学校給食に積極的に取り入れ、地産地消を推進する。					
地場野菜使用率						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	31.3%	31.3%	28.6%	20.4%	25.0%	
R6 指導 の重点 【13 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1	継続	地場野菜、母子茶など特産品を使ったふるさと給食の実施			○
	2	継続	三田米を使った給食（週4回）の実施			○
	3	継続	献立表や食育教材を活用した、子どもの地元食材への理解促進			○
	4	新規	三田の「ご当地グルメ」の開発			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	JA との協力により三田産黒大豆枝豆を用いたコロッケを初めて提供した。				
	2	三田産特別栽培米の提供（6月に4回）を初めて実施した。				
	3	栄養教諭によりきめ細やかな食育指導を行った。				
	4	「さんだのご当地給食・子ども会議」により、子どもたちが三田をイメージで				

	きる献立案を自ら提案した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	3 課題についての対策（案）【A】		期待効果
	指 標	実績 (令和 6 年度)	目標 (令和 8 年度)
	地場野菜使用率	25.0%	35.0%
			進捗 状況 ×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率 90%以上 100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率 70%以上 90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率 70%未満)、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「-」調査対象外

2 4	学校給食の安全・安心の確保	担当課	学校給食課		
取組内容 基本計画 P【33 頁】	国の定めた「学校給食衛生管理マニュアル」や本市の「学校給食異物混入対応マニュアル」、「学校給食における食物アレルギー対応の手引き」等に基づき、食材の購入から調理、給食の提供に至る各工程において、施設・人の衛生面を含め、学校給食の安全管理を推進する。				
	「食の安全に関する研修」の実施状況				
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
	実施	実施	実施	実施	実施
R6 指導の 重点 【13 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	食の安全に関する研修の実施		○
	2	継続	子どもたちへの適切なアレルギー対応		○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	教育委員会、学校園と情報共有を図り、調理師への研修を継続実施した。			
	2	「食物アレルギーチェック用こんだて表」の改訂を行ない、保護者や教職員がよりきめ細やかに安全管理を行うことができたようになった。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	

2 5	学校給食の異物混入未然防止	担当課	学校給食課		
取組内容 基本計画 P【33 頁】	給食センターをはじめ、食材の納入や米飯・パンの調理提供等に携わる事業者と異物混入などの事案や改善策などの情報を共有し、食中毒や異物混入等の事故の未然防止を図る。				
	「委託工場等への定期・不定期査察」の実施状況				
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
	4 回	4 回	3 回	3 回	3 回

異物混入等事案発生件数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	30件	24件	17件	19件	16件
食中毒発生件数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	0件	0件	0件	0件	0件
R6 指導の 重点 【13頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	事前ミーティングによる作業手順の確認の徹底		○
	2	継続	健康状態、衛生面、作業工程等の点検票による記録、確認		○
	3	継続	委託工場等への定期、不定期の査察と混入防止策、衛生環境の改善、強化依頼		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	食材の下処理時や調理過程等での細やかな点検による異物や納品不良の事例を集積し、納品業者への指導・注意喚起を行ない異物混入事例とならない様に未然防止に努めている。			
	2	毎日個人ごとの健康状態の記録及び手指チェックし、日頃より手洗いの励行に心がけを持つように指導を行っている。			
	3	日々不良箇所の見落としがないか再度確認し指導を行っている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

26	感染症予防のための能力・態度の育成	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【33頁】	新型コロナウイルス感染症については、「学校における新型コロナウイルス感染症予防について」を随時見直し、感染拡大防止を図るとともに、インフルエンザ、風疹、麻しん等の感染症に対しての正しい知識と理解をもとに、予防する能力や態度の育成を図る。				
R6 指導の 重点 【13頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	国のマニュアル「感染症の解説」「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」（文部科学省）に基づく対応		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（2023.5.8～）に基づき、平時と感染流行時の対策を区別したことで、感染症の流行状況に応じた感染症対策と学校教育活動の両立を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				

改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】		期待効果

27	健康教育の充実		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【33頁】	継続的に健康診断等を実施するとともに、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育及び感染症やアレルギー疾患に関する教育、疾病予防等について学校医等との連携を図りながら、正しい理解と行動につながる健康教育の充実を図る。				
学校保健研修会受講者数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		42人	47人	35人	41人
関係機関や専門指導員等と連携した薬物乱用防止教室開催状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		13校	15校	21校	22校
R6 指導の 重点 【14頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	健康教育に関する研修会の実施		○
	2	継続	「学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル」(兵庫県教育委員会)、「学校園(学校給食)における食物アレルギー対応の手引き」(三田市教育委員会)による対応		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	学校における救急処置をテーマに研修会を実施し、教職員の資質向上を図った			
	2	令和6年1月改定の手引きに基づき、食物アレルギーチェック用献立表を改訂			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】		期待効果		

(3) 安全・防災教育

自ら身を守る能力や態度を育成する防犯教育とともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献する意欲を育む安全教育に取り組みます。

また、様々な場面や状況での災害を想定し、被害を最小限に減らす減災意識の向上や災害から自らの生命を守るための知識や技能を習得し、判断力、行動力を育成するとともに、災害の経験と教訓を継承し、人間としてのあり方、生き方を考える防災・減災教育に取り組みます。

【主な取組】

28	安全教育の充実		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【34頁】	子どもが自ら身を守り安全を確保する能力を育成するため、防犯訓練や交通安全教育、AEDを扱う命の教育を行うなど、家庭・地域と連携して子どもの安全を確保する取組を推進する。				
防災訓練・防犯訓練・交通安全教育の実施状況					
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	20校	20校	20校	20校	20校
中学校	8校	8校	8校	8校	8校
特別支援学校	1校	1校	1校	1校	1校
R6指導の 重点 【14頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	交通安全教室、防犯教室等の開催		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	希望があった学校・園に対して交通安全教室を実施（保育園10回、幼稚園14回、小学校24回、中学校4回）			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

29	防災・減災教育の充実		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【34頁】	震災等の教訓を踏まえ、災害から自分自身や家族の生命を守るため主体的に行動する力（自助）を培う。また、災害時、学校には安全確保のため避難所が設置されることを踏まえ、自ら地域の一員としての自覚をもって、隣人や地域の方々と助け合って行動しようとする態度（共助）を育成する。				
地域と連携した防災訓練の実施数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	13校	18校	24校	24校	26校

R6 指導の 重点 【14 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	地域と連携した防災訓練の実施	○
	2	継続	副読本「明日に生きる」等の活用	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		地域と協力する体験を積む中で、児童生徒が自らの命を守る防災意識を高めることができ、また全小中特別支援学校において 1.17 の集いを実施することができた。	
	2		全小中特別支援学校において、副読本「明日に生きる」を活用し、震災について学ぶ機会を設けることができた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

30	生命（いのち）を大切にする教育の推進		担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【35 頁】	児童生徒の発達段階に応じて、性暴力の加害者、被害者、傍観者とならないよう「生命を大切にする」安全教育を推進する。その上で、性暴力の根底にある誤った行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解し、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を育成する。			
R6 指導の 重点 【14 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	児童生徒の発達の段階や学校の状況を踏まえた、文部科学省作成「生命（いのち）の安全教育のための教材及び指導の手引き」の活用	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		各学校において、児童生徒の発達段階に応じて性教育に取り組んだ。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

基本施策 4 一人一人が大切にされる教育の充実

(1) 特別支援教育

障害のあるなしに関わらず、人格と個性を尊重し支え合い、多様なあり方を誰もが相互に認め合える共生社会の実現に向け、「共に学び、共に育つ」教育を推進します。子ども一人一人の自立と社会参加をめざし、支援を必要とする子どもの発達の状態や特性、個々の教育的ニーズを把握して効果的な指導支援の充実を図ります。そのために、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業や学校環境の整備等、すべての子どもが安心して学べるよう教職員の特別支援教育に係る理解を深め、指導力の向上を図ります。

また、関係機関や専門家と連携・協働し、校種間の円滑な引き継ぎを行い、発達段階の連続性を大切にした支援体制や相談体制の充実に努めます。

さらに、医療的ケアを含む多岐にわたる教育的ニーズに応えることができるよう連続性のある「多様な学びの場」の整備と充実を図ります。

【主な取組】

31	就学前から卒業後までを見通した個別の指導計画等の作成と活用		担当課	教育支援課	
取組内容 基本計画 P【38頁】	支援が必要な子どもについて、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成するとともに、医療、家庭、福祉等との横連携及び、進学、就職時等の縦連携に「サポートファイル」を活用し、切れ目ない一貫した支援の充実を図る。				
サポートファイルの活用実績数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	473人	532人	557人	607人	634人
R6 指導の 重点 【16頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	市様式の個別の教育支援計画等の作成と活用		○
	2	継続	サポートファイルの縦横連携への活用（特別支援教育コーディネーター等ネットワーク会議の開催、三田市教育相談支援チーム連絡会の開催、家庭・教育・福祉の連携の推進）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	特別な教育課程を編成している全児童生徒に、個別の教育支援計画を作成済			
	2	三田市内関係機関との縦横連携により、切れ目のない支援体制を構築			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

3 2	特別支援教育相談の充実	担当課	教育支援課・幼児教育振興課		
取組内容 基本計画 P【38頁】	就学に関する早期からの相談等、より多様な相談に対応すべく、「特別支援教育サポートセンター」の専任コーディネーター並びに外部専門員や三田市教育相談支援チーム相談員の専門性を活かし、相談の充実を図る。				
特別支援教育サポートセンター相談件数					
相談種別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
来所型	187件	219件	197件	213件	272件
訪問型	185件	171件	275件	278件	271件
合計	372件	390件	472件	491件	543件
就学説明会、学校見学会、就学相談会の実施状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	121件	113件	114件	102件	108件
R6 指導の 重点 【16頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	就学支援事業の実施（三田市教育支援委員会、就学説明会、就学相談会）		○
	2	継続	特別支援教育サポートセンター相談事業の実施（電話相談、面接相談、外部専門員相談、巡回相談、療法士相談、校内委員会訪問支援）		○
	3	継続	市立幼稚園特別支援教育サポート事業の実施		◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	就学先校における説明会や見学会、個別相談等の丁寧な実施			
	2	特別支援教育サポートセンターに専任コーディネーター2名を配置し、早期に即時的な対応により相談事業の充実を図った。			
	3	市立幼稚園・認定こども園を訪問し、外部専門員による相談の充実を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

3 3	特別支援教育研修の充実	担当課	教育支援課		
取組内容 基本計画 P【38頁】	すべての教職員の特別支援教育に係る理解を深めるとともに、特別支援学校教職員・特別支援学級担任や特別支援教育支援員等の専門性と指導力の向上を図るため、ニーズに応じたより実践的な内容の研修を実施する。				
特別支援教育研修講座受講者数（年間延べ人数）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	131人	158人	270人	296人	316人
R6 指導の 重点 【17頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	特別支援教育研修講座の開催（基礎研修、選択課題別研修、授業・保育実践研修、教育相談実地研修、コー		○

		ディネーター研修、通級指導担当者研修)			
	2	継続	職種別特別支援教育研修の実施（自立活動実地研修、特別支援教育支援員研修、医療的ケアにかかる研修）	○	
	3	継続	療法士派遣事業の実施	○	
	4	継続	合理的配慮実践推進校指定事業の実施	○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	教職員の専門性を高める資質向上事業の推進に努めることができた。			
	2	初任特別支援学級・学校担当教員対象の講座の充実のため、自立活動実地研修の受講を必須とした。			
	3	療法士の専門性により、センター的機能を有する三田市立ひまわり特別支援学校教員等に対して、定期的に指導助言を行うことができた。			
	4	各校における合理的配慮提供支援の体制整備の充実を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
	指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
	特別支援教育研修講座受講者数 (年間延べ人数)		316	320人	○

※進捗状況 「○」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

34	通常の学級における指導・支援の充実	担当課	教育支援課		
取組内容 基本計画 P【38頁】	校内支援体制を整備し、共通理解のもと、発達障害等により通常の学級において、特別な支援を要する子どもに対し、実態に応じた指導支援を行うとともに、特別支援教育指導補助員による教育的支援や通級指導教室における自立に向けた指導の充実を図る。				
学校生活支援教育による通級指導の実施状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	17校	17校	17校	18校	17校
中学校	8校	8校	8校	7校	8校
R6 指導の 重点 【17頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	校内支援体制整備の充実（特別支援教育コーディネーター連絡会の開催）		○
	2	継続	指導補助員の配置（小学校に13名配置）		○
	3	継続	学校生活支援教員の拠点校配置（県事業）（小中学校に9名配置）		△

特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	各校における特別支援教育校内支援体制の整備につながっている。	
	2	通常の学級に在籍し、発達障害等により行動面・学習面において困難を示す児童及び学級への教育的支援を行えた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
	3	拠点校増が不認可となり、担任一人あたりの指導児童生徒数が大幅に増加。	
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果
	3	国が示す配置基準となるよう、引き続き拠点校増をめざす。	◎

3 5	共に生きる教育の推進	担当課	教育支援課	
取組内容 基本計画 P【38 頁】	障害のある子どもとない子どもが、共に学ぶことを通して互いを理解し、協力して生きていく態度を育成する。特別支援アシスタントや指導員等の教育的支援の充実を図り、子ども一人一人の教育的ニーズに対応しながら、小中学校や特別支援学校での交流及び共同学習を充実する。			
R6 指導の 重点 【17 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	交流及び共同学習の推進（特別支援学級教育課程編成に係る説明会の開催）	○
	2	継続	特別支援学級自立支援員及び指導員の配置	○
	3	継続	特別支援アシスタントの配置	○
	4	継続	三田市立学校における医療的ケア運営協議会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	児童生徒一人ひとりの個に応じた教育課程編成の充実を図った。		
	2	障害の特性に応じた、一人ひとりの教育的ニーズに対応できるよう、配置の充実を図った。		
	3	各校で工夫を凝らし、子どもたちの社会的自立につながる体験活動等の教育活動に向け、より効果的かつ安全に実施することができた。		
	4	医療的ケアを必要とする児童生徒が、健康で安全な学校生活を送るための体制の充実を図った。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果	

(2) 生徒指導・相談体制の充実

今後も、児童生徒や保護者との信頼関係を深め、いじめの早期発見・早期対応、そして「いじめ見逃しゼロ」に向け、児童生徒理解に基づいた教育の充実に組織的に取り組みます。また、いじめを生み出す構造的な課題に目を向け、児童生徒が状況に応じて主体的に判断し、適切に行動できるよう、自己指導能力を高めることで、いじめや問題行動の未然防止をめざし、すべての子どもたちが安心して生活し、学ぶことができる学校づくりを進めます。

また、DV、ネグレクト、貧困やヤングケアラーなどの状況にある子どもたちに対して、支援の実施主体である福祉部局と密接に連携し、家庭・地域での子どもたちの環境改善に努めます。そして、不登校児童生徒に対しては、個に応じたきめ細かな指導・支援を行うとともに、初期対応を充実し不登校の予防に努めます。

【主な取組】

36	生徒指導の充実		担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【40頁】	組織的に、いじめ・不登校・問題行動の未然防止、早期発見、早期対応を図るとともに、予防を目的とした生徒指導と相談体制の強化、学校園所連携の充実を図る。また、教職員がSNS上のいじめやトラブルに対応できるよう情報モラルに関する指導力向上を図る。					
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
小6	実施なし	98.6%	97.8%	97.9%	97.6%	
中3		94.6%	97.0%	95.8%	97.1%	
いじめの報告件数						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
小学校	71件	87件	116件	127件	464件	
中学校	56件	79件	66件	122件	167件	
R6 指導の 重点 【18頁】	種別	具体的取組【D1】				評価【C1】
	1	継続	三田市いじめ問題対策連絡協議会の開催			○
	2	継続	三田市いじめ対策ネットワーク会議の開催			○
	3	継続	三田市生徒指導等問題対策委員会の開催			○
	4	継続	学校問題サポートチームの派遣			○
	5	継続	三田市生徒指導研究会等の開催			○
	6	継続	三田市不登校等に関する支援の在り方検討委員会の開催			○
特筆すべき取組の内容(成果)【D2】						
1	三田市いじめ問題対策連絡協議会を1回開催し、三田市の関係機関におけるいじめ問題について、協議を行った。					

特筆すべき取組	2	三田市いじめ対策ネットワーク会議を1回開催し、各学校の担当者を中心にいじめ防止の取組について話し合うことができた。		
	3	三田市生徒指導等問題対策委員会を7回開催し、三田市の生徒指導の方向性やいじめ重大事態報告書の内容について議論。いじめアンケートについて児童生徒の実態把握につながる内容になるよう助言をいただく。		
	4	学校問題サポートチームが、新任教員・2年目教員・生徒指導担当教員配置校の訪問を実施した。		
	5	「不適切な指導とこれからの生徒指導」の演題で講師を招いて、管理職、生徒指導担当者、経験年数10年を超えた教員を対象とする研修会を実施した。		
	6	令和5年度の三田市不登校等に関する支援の在り方検討委員会の意見を受け、保護者向けの不登校相談リーフレットを作成・配布し、学校内外の不登校児童生徒への支援のために家庭への啓発を行った。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)		(小6) 97.6% (中3) 97.1%	(小6) 100% (中3) 100%	▼

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

37	教育相談の充実	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【40頁】	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子どものサポーター、関係機関、保護者との連携により、児童生徒一人一人の思いに共感し、大切にできるようにチームとしての教育相談体制の充実を図る。				
スクールカウンセラー相談件数（市費 SC）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	702件	1,042件	821件	991件	1,274件
R6指導の 重点 【18頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 拡大	スクールカウンセラーの配置（中学校8校、小学校4校に県費カウンセラーの配置：1日6時間 年間35回）（小学校7校、特別支援学校に市費カウンセラーの配置：1日6時間 年間15～35回）			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	すべての市内公立小中学校・特別支援学校において、スクールカウンセラーによる児童生徒や保護者を対象としたカウンセリングや学校への助言を行った。また、三田市スクールカウンセラー配置事業（市費）の配置校と配置時間の拡充を図り、より多くのニーズに対応できるよう体制づくりを推進した。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

38	不登校対策の充実	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【40頁】	不登校児童生徒の社会的自立を支援するため、三田市あすなる教室をはじめ、民間施設（フリースクール）への通所や家庭でのデジタル技術を活用した学習を指導要録上出席として取り扱うなど、対策を充実する。				
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	—	73.7%	65.3%	55.9%	66.8%
不登校児童生徒の出現率					
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	0.58%	0.97%	1.46%	2.05%	1.99%
中学校	3.87%	5.20%	6.14%	7.00%	6.65%
R6指導の 重点 【18頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	あすなる教室における陶芸教室、野外炊事活動、体育文化活動など体験活動の充実			○
	2 継続	あすなる教室へのカウンセラー配置			○
	3 新規	あすなる教室へのスクールソーシャルワーカー配置			△

	4	継続	あすなる e-school (メタバースを活用した不登校児童生徒への支援) の充実	×
	5	拡大	子どものサポーターの配置 (中学校 8 校、小学校 5 校に配置 : 1 回 4 時間 × 175 回 = 年間 700 時間)	○
	6	継続	こころとからだの自立に向けた相談会の開催 (年間 5 回)	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容 (成果) 【D2】			
	1		三田市あすなる教室において、通所生を対象に各種の体験活動を行った。	
	2		三田市あすなる教室にカウンセラーを配置し、児童生徒や保護者を対象に、主に不登校等の悩みに関するカウンセリングを行った。	
	5		子どものサポーターを配置 (中学校 8 校、小学校 6 校 (うち 1 校年度内追加配置)) し、教室に居づらい児童生徒を対象に、校内サポートルーム等で個に応じた支援の充実を図った。	
	6		相談会を開催し (全 5 回)、対象児童生徒 (延べ 10 名) 及び保護者へのカウンセリングを行うとともに、児童生徒が心身の状態に応じたセルフコントロールの方法を身に付けられるよう具体的なアプローチを行った。	
	上記具体的取組に関する主な課題 (主な原因) 【C2】			
課題等	3		あすなる教室にスクールソーシャルワーカーを配置し (年間 525 時間)、通所生の通所支援や進路選択の支援を行った。しかし、対象となった児童生徒は一部に留まったため、より多くの児童生徒に対する支援の充実が求められる。	
	4		あすなる e-school で試みた簡易メタバースでの支援に代わり、生成 AI を用いた対話機能の開発と実証 (児童生徒約 350 名対象) に取り組んだ。	
改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】			期待効果
	3		今後は、あすなる教室通所生以外にもアウトリーチを行うなど、より多くの不登校児童生徒への支援の充実を図る。	より多くの不登校児童生徒に対する専門的な相談・指導等の支援
	4		生成 AI を用いた対話機能に係る研究や実証を行う「MIRAI ノートプロジェクト」を実施する。	不登校児童生徒等の不安や不満の軽減
指 標		実績 (令和 6 年度)	目標 (令和 8 年度)	進捗状況
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合		66.8% (30 日以上欠席児童生徒) 76.6% (90 日以上欠席児童生徒)	100%	▼

※進捗状況 「◎」 目標を達成 (100%以上)、「○」 目標に向け順調に進捗している (目標進捗率 90%以上 100%未満)、
「△」 目標に向け概ね順調に進捗している (目標進捗率 70%以上 90%未満)、「▼」 目標に向け順調に進捗していない (目標進捗率 70%未満)、「×」 令和 3 年度実績を下回っている、「-」 調査対象外

39	スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【40頁】	児童生徒の生活環境の課題に対し、福祉的な視点からの支援を充実するため、スクールソーシャルワーカーとの連携を推進する。				
スクールソーシャルワーカー相談件数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	841件	1,114件	1,092件	1,159件	1,100件
R6指導の 重点 【18頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進		○
	2	継続	スクールソーシャルワーカーの配置（8中学校区にスクールソーシャルワーカーの配置：1日7時間45分年間35回）		○
	3	継続	スクールソーシャルワーカースーパーバイザーの配置（1名配置：スクールソーシャルワーカーに指導助言及び支援、研修会等の講師等を行う。）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	スクールソーシャルワーカーを学校職員に位置付け、連携した支援を推進した。			
	2	各中学校にスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒が抱える諸課題について、学校、家庭、関係機関をつなぐ支援を行った。			
	3	スクールソーシャルワーカーの要望に応じて、スーパーバイザーによる指導助言及び支援を行った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

40	福祉部局と連携した効果的な支援	担当課	学校教育課・教育支援課		
取組内容 基本計画 P【40頁】	福祉的な支援を要する児童生徒に対して、第2期三田市子ども・子育て支援事業計画に掲げる施策の実施等により、効果的な支援につながるようスクールソーシャルワーカーや福祉部局との連携を図る。				
教育相談の充実に向けた研修会の開催状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	32名	31名	37名	36名	42名
R6指導の 重点 【19頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	教育相談の充実に向けた研修会の開催		○
	2	継続	スクールソーシャルワーカーと福祉部局との連絡会及び研修会の開催		○

特筆すべ	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】	
き取組	1	不登校への理解を深める研修を行い、各校での支援の充実を図った。
	2	三田市地域福祉課、三田市社会福祉協議会と協働してスクールソーシャルワーカー連絡協議会を開催し、各地域における連携に向けた協議を行った。また、フリースクール等民間施設の支援者を講師に招き、スクールソーシャルワーカーへの研修を行った。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】	
		期待効果

(3) 保護者の経済的負担の軽減

経済的な理由により就学困難な児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者等に対して、学校教育に必要な費用の支援を継続して実施します。

また、国等の動向を注視しながら、支援内容の充実に取り組みます。

これらにより、保護者の経済的な負担の軽減を図るとともに、学校教育の円滑な実施を図ります。

【主な取組】

4 1	就学援助費及び高等学校等入学支援金の支給		担当課	教育支援課	
取組内容 基本計画 P【41頁】	経済的な理由により就学困難な小中学校等の児童生徒の保護者に対して、新入学生用品費、学用品費、給食費、修学旅行費等を支給する。また、高等学校等入学の際に必要な費用の一部を支給する。				
就学援助費の支給状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	516人	449人	546人	518人	526人
	28,845千円	28,013千円	27,803千円	26,474千円	27,727千円
中学校	272人	240人	251人	272人	258人
	22,413千円	21,645千円	21,232千円	23,441千円	20,788千円
援助率	8.89%	7.69%	7.35%	7.49%	7.51%
就学援助費（入学準備金）の支給状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	47人	27人	40人	38人	44人
	1,908千円	1,379千円	2,042千円	2,054千円	2,511千円
中学校	89人	50人	71人	65人	57人
	4,218千円	3,000千円	4,260千円	4,095千円	3,591千円
高等学校等入学支援金の支給状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人数	25人	38人	24人	14人	7人
金額	1,580千円	2,402千円	1,516千円	884千円	443千円
R6 指導の 重点 【19頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	就学援助費の支給		○
	2	継続	高等学校等入学支援金の支給		○
特筆すべき 取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	就学困難な児童生徒に学用品等を援助し、義務教育の円滑な実施を図った。			
	2	中学卒業後、就学が困難な生徒に対し、自立と進学を促進を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等	課題についての対策（案）【A】				期待効果

(R8 向)			
--------	--	--	--

4 2	遠距離通園・通学費の補助	担当課	教育支援課・幼児教育振興課		
取組内容 基本計画 P【41頁】	市立の幼稚園及び小中学校に遠距離通園・通学する園児・児童生徒の保護者に対して、通園・通学費を補助する。				
バス定期の支給状況（10/10 補助）					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
幼稚園	8 人	8 人	8 人	5 人	2 人
	261 千円	273 千円	309 千円	175 千円	78 千円
小学校	154 人	145 人	140 人	102 人	92 人
	5,299 千円	4,942 千円	4,678 千円	4,026 千円	4,141 千円
中学校	94 人	83 人	72 人	72 人	75 人
	10,481 千円	9,220 千円	7,942 千円	9,118 千円	10,081 千円
通学用品の支給状況（小学生 5 千円、中学生 10 千円を上限に補助）					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
小学校	5 人	4 人	2 人	4 人	3 人
	10 千円	20 千円	10 千円	19 千円	15 千円
中学校	94 人	70 人	67 人	48 人	52 人
	632 千円	661 千円	643 千円	469 千円	513 千円
R6 指導の 重点 【19 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	遠距離通園・通学費の支給		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	小学校 3km・中学校 4km 以上の児童生徒に対し補助することで、学校教育の円滑な運営と保護者負担の軽減を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

4 3	特別支援教育就学奨励費の支給	担当課	教育支援課		
取組内容 基本計画 P【41頁】	市立の小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対して、新入学学用品費、学用品費、給食費、修学旅行費等を支給する。				
特別支援教育就学奨励費の支給状況					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
小学校	108 人	113 人	118 人	122 人	135 人

	3,027 千円	3,551 千円	3,909 千円	4,153 千円	4,290 千円
中学校	36 人	45 人	58 人	53 人	57 人
	1,645 千円	2,026 千円	3,263 千円	3,288 千円	3,642 千円
R6 指導の 重点 【19 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	特別支援教育就学奨励費の支給		○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	特別支援学級に在籍する指導生徒の保護者に対して、学用品費等就学に必要な経費の一部を支給することにより、経済的負担の軽減を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

基本施策 5 社会的自立に向けた教育の推進

(1) キャリア形成と自己実現を図る教育

子どもたちが、社会の中で、自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するために、学校・家庭・地域が連携したキャリア教育の充実に取り組み、子どもが自ら学び、自身の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を図ります。

環境体験事業や総合的な学習の時間等において、三田の豊かな自然や豊富な学習資源等を活用し、環境保全に対する理解と関心を深めます。具体的な行動に結びつけられるような環境教育を推進することで、子どもたちのコミュニケーション能力や問題解決能力の育成を図ります。

また、多様な学びの場として魅力ある持続可能な部活動を推進し、生徒自身が仲間と連携・協働することで目標達成に挑み、自己肯定感を高め生徒の自己理解・自己管理能力や課題対応能力の育成を図ります。

4 4	キャリア教育推進体制の整備		担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【45頁】	学校におけるキャリア教育の目標を明確にし、その上で、組織的・系統的な推進体制を整備し、教育活動全体を通じて、キャリア形成と自己実現を図る。			
R6 指導の 重点 【20頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	キャリア教育推進体制の整備	○
	2	継続	特別活動を要としたキャリア教育の充実	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	キャリア教育の目標を明確にし、組織的・系統的な推進体制を整備した。		
	2	教育活動全体を通して、キャリア形成と自己実現を図った。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

4 5	キャリアノート、キャリア・パスポートの活用		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【45頁】	キャリア教育を通して、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する能力を育成するため、「キャリアノート」「キャリア・パスポート」を活用し、小学校から高等学校まで切れ目のない指導の充実を図る。				
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度

小6	実施なし	80.7%	79.2%	79.9%	83.3%
中3		68.6%	66.7%	62.7%	64.2%
R6 指導の 重点 【20 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	キャリアノート、キャリア教育指導資料等の活用と評価		○
	2	継続	「キャリア・パスポート」を活用した子ども一人一人の成長の見取りと支援の充実		○
	3	継続	「兵庫版キャリア・パスポート」等を小学校、中学校、高等学校へ引き継ぎ、切れ目のない指導の充実		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	キャリアノートを活用し、自らの取り組みを振り返ることができた。			
	2	自らの活動を振り返る中で、自分らしい生き方について考えることができた。			
	3	小中高校間でキャリアノートを引き継ぎ、自らの考え方の違い・成長について振り返ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
指 標		実績（令和6年度）		目標(令和8年度)	進捗 状況
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)		(小6) 83.3% (中3) 64.2%		(小6) 90.0% (中3) 80.0%	▼

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「―」調査対象外

46	キャリア教育に関わる体験活動の充実	担当課	学校教育課・教育研修所		
取組内容 基本計画 P【46 頁】	「環境体験事業」、「自然学校」、「わくわくオーケストラ教室」、「トライやる・ウィーク」、「特別支援学校交流・体験チャレンジ事業」等の体験活動をキャリア教育の核として、自己の可能性や適性の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等のため、体験活動の充実を図る。				
R6 指導の 重点 【21 頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】	
	1	継続	環境体験事業(小学3年生)→(各校年間3回以上の実施)		○
	2	継続	自然学校推進事業(小学5年生)→(各校4泊5日の実施)		○
3	継続	わくわくオーケストラ推進事業(中学1年生)		○	

	4	継続	トライやる・ウィーク推進事業（中学2年生）	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	地域の人材や教育資源を生かした特色ある活動を通して、自然にふれ合う体験型環境学習を行うことができた。		
	2	4泊5日の宿泊体験活動を通して、主体的に判断し行動する態度を育てるとともに、自然・生命を大切にする態度を養うことができた。		
	3	参加生徒の多くから「多くの楽器について知ることができた」「迫力ある演奏に感動した」等、肯定的な感想があり、学習意欲の向上が見られた。		
	4	学ぶことの意義や、自己の可能性、適性について理解することができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

47	家庭・地域と連携・協働したキャリア教育の推進		担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【46頁】	子どもたちを取り巻く学校・地域の現状や課題について、学校と学校外の関係者で共通理解を図り、「地域の教育力」を活用して、学校と家庭・地域と連携・協働したキャリア教育を推進する。			
R6指導の 重点 【21頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	「トライやる」アクションの推進	○
	2	継続	地域ぐるみで子どもを支えるコミュニティ・スクールの充実	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	市内全8中学校において、地域の行事やボランティア活動に参加することができた。		
	2	教育委員会規則に基づいて全29校に学校運営協議会を設置し、連携と協働の活性化にむけ、学校運営協議会及び学校・家庭・地域連携協力推進にかかる合同研修会を実施した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
		課題についての対策（案）【A】		期待効果

48	環境教育を通じた問題解決能力の育成		担当課	教育研修所
取組内容 基本計画 P【46頁】	身の周りの自然や環境問題について、体験的に関わる活動や問題解決的な学習を通して、自然環境を大切にしようとする心情を育むとともに、自然と調和のとれた社会の創造に向けて、他者と協働し多様な視点をもとに、よりよい問題解決を図る力を育成する。			
R6指導の		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】

重点 【21 頁】	1	継続	環境教育、体験活動の充実	○
	2	継続	太陽光発電システムの環境教育への活用	○
	3	継続	有馬富士自然学習センター、県立人と自然の博物館等、関係機関との連携	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	環境体験事業に加え、各校の実情に応じて、地域人材や資源を活用した環境教育に取り組むことができた。		
	2	小学6年生理科「発電と電気の利用」や総合的な学習におけるSDGsに関わる学習と関連付けて太陽光発電システムについて学ぶことができた。また、小学校高学年児童が民間企業と連携して、太陽光発電システムの再生エネルギーの活用について体験的に学ぶなど、学習形態も広がりが見られた。		
	3	各関係機関と連携し、学校では経験のできない独自のプログラムや学習を通して、環境の大切さを学ぶことができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

※R7年度より地域クラブ推進課が担当

49	部活動による個性の伸長		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【46 頁】	スポーツや文化芸術等の体験活動を通じて、自分自身の可能性について自己理解・自己管理能力を深め、他者との関わりの中で、責任感、連帯感の涵養を図り、好ましい人間関係を育む。また、部活動指導員など地域の教育力を効果的に活用するとともに、学校の実状に応じ、複数の学校による合同チームの実施等、持続可能な部活動運営のための体制整備に努める。				
運動部活動、文化部活動への入部の状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	86%	84%	83%	82%	85%
部活動指導員の配置の状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	4人（4校）	10人（8校）	10人（8校）	11人（8校）	12人（8校）
R6 指導の 重点 【21 頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	部活動振興事業		○
	2	拡大	部活動指導員の配置		○
	3	継続	複数校合同チームへの支援		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	各中学校における部活動の支援を行った。			
	2	部活動指導員を1名増員した。			
	3	複数校合同チームを支援することで、活動の充実を図った。			

課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

(2) グローバル化に対応した教育

グローバル化が進展する社会の中で、国際的な視野に立って主体的に行動するために必要な資質・能力や異なる言語や文化、価値観などを尊重する態度の育成に取り組むとともに、外国語（英語）によるコミュニケーション能力や問題解決能力を育成し、様々な分野でグローバルに活躍する人材を育てます。

日本の伝統文化を体験的に学ぶことを通して、ふるさとを大切に思う心や伝統文化を尊重する態度を育みます。

本市の地域の自然や歴史、文化、人々の営みにふれる体験活動を通じて、ふるさとに対する愛着や誇りを育むとともに、多様な文化に対する理解を深め「さんだっ子」としてのアイデンティティを育てる教育を推進していきます。

【主な取組】

50	国際理解教育推進	担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【47頁】	三田市国際交流協会等と連携を図り、様々な言語や文化にふれる機会を充実させるとともに、体験的な学習を取り入れ、国際的視野に立って持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育成する教育を充実する。			
R6 指導の 重点 【22頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	国際化に対応した教育の充実	○
	2	継続	三田市国際交流協会や大学と連携したボランティアティーチャーを派遣	○
	3	継続	国際理解教育教材の貸し出し	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	「三田市外国人児童生徒等教育基本方針」の改定に伴い、校長会、担当者研修会等を通じて改定内容等について周知する等、多文化共生の風土の醸成に向けた取組を推進した。		
	2	三田市国際交流協会と連携し、外国にルーツを持つ児童生徒の文化等への理解や「やさしい日本語」への理解を深める取組を推進した。		
	3	書籍の貸し出し、民族楽器の貸し出しを行い、各学校で体験的な国際理解教育を実施することができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

51	外国語（英語）教育の推進	担当課	教育研修所
取組内容 基本計画 P【48頁】	就学前から中学校までの期間を見通し発達段階に応じて、外国語（英語）教育を推進する。小中学校においては言語活動を通して、「聞く」「読む」「話す〔やり取り〕」「話す〔発表〕」「書く」の4技能5領域を総合的に育成する。外国語（英語）		

教育の一層の充実に向けて小中連携を推進する。					
「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小6	新規指標	75.3%	実施なし	実施なし	実施なし
中3		70.5%			
小学校英語専科の配置状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	3人	4人	6人	8人	9人
R6 指導の 重点 【22頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	三田市英語教育推進の基本方針の着実な実施		○
	2	継続	オンラインさんだ子ども英語教育の開催		○
	3	継続	三田市中学校英語暗唱大会の共催		△
	4	継続	ALT、小学校外国語活動サポーターの派遣（英語教育推進事業）		○
	5	継続	小学校英語専科の配置（R6：9名）		○
	6	継続	中学校でオンライン英語授業の実施		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	11年間を見通した教育を行うため、小中学校の担当者が集まり中学校区にてめざす子ども像を設定したり情報共有を図ったりしながら取組を進めた。			
	2	ALTが学年に応じた英語学習動画を作成し、自由に小中学生がオンライン視聴できる取組を行い、夏休みの終わりには視聴回数が述べ937回となった。			
	4	全小中学校にALT・サポーターを配置し、実践的な外国語活動と異文化理解を深める取組を行った。			
	5	英語専科をR5の8名から9名と1名増やすことができた。定期的に担当者会を実施し、互いに研鑽することで充実した英語教育を推進した。			
	6	事後アンケートから、実施した生徒が実施毎に自分の英語力向上を実感していた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	3	英語暗唱大会の運営（募集・指導・準備）にかかる教師の負担が大きい。英語の暗唱は、今求められる英語力に対応していない。			
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
	3	暗唱大会からスピーチ大会に変更し、教育研修所が運営を行う。今求められている英語力に対応したスピーチを設定する。		英語力の向上	
指 標			実績（令和6年度）	目標（令和8年度）	進捗状況
「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」と答える子どもの割合			実施なし	(小6) 78.0% (中3) 73.0%	—

(全国学力・学習状況調査)			
---------------	--	--	--

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「―」調査対象外

5 2	伝統や文化に関する教育の推進	担当課	教育研修所
取組内容 基本計画 P【48頁】	古典、武道等、日本の伝統や文化にふれる学習・体験を通して、子どもの興味・関心を高めるとともに、国・郷土を愛する心や伝統文化を尊重する態度を育む。		
R6 指導の 重点 【22頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続 伝統や文化に関する教育の推進	○
	2	継続 校外学習活動支援事業	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】		
	1	県事業(子ども伝統文化わくわく体験教室)などを活用しながら伝統や文化に関する教育の推進を行った。	
	2	市内巡りを通して、三田市の自然や文化遺産、産業に体験的にふれることによって、ふるさと三田魅力を実感する学習に取り組んだ。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】		
改善策等 (R8向)	課題についての対策(案)【A】		期待効果

5 3	「ふるさと学習」の充実	担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【48頁】	三田の自然、歴史、文化、「川本幸民」や「三好達治」等の偉人を学習材として、市の学習施設等も活用しながら見学や調査等を行う体験活動を推進する。また、友好都市である鳥羽市との交流活動を通じて、互いの市の様子について理解を深めるとともに、友好の精神を育む。				
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小6	実施なし	64.8%	54.5%	63.9%	実施なし
中3		49.5%	43.4%	40.7%	
R6 指導の 重点 【23頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】	
	1	継続	ふるさと学習推進事業	○	
	2	継続	校外学習活動支援事業	○	
	3	継続	ふるさと読本「川本幸民物語」「明治を生きた三人の九鬼さん」「塚本稔物語」「白洲退蔵物語」「甲賀ふじ物語」「北の大地に理想郷を築いた人々～鈴木清・澤茂吉物語～」や「三好達治名詩選集」等の活用	○	
	4	継続	友好都市交流事業(神島小学校との交流)	○	

特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	歴史収蔵センター、旧九鬼邸などの見学によりふるさとへの愛着を深める学習に取り組んだ。		
	2	小学校3年生による社会見学として、三田の地理や歴史、産業を学んでいる。		
	3	ふるさと読本の活用による地域の偉人学習を充実させた。		
4	鳥羽市立神島小中学校と母子小学校によるオンライン交流で学校間交流を学期に1回定期的に実施できた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果	
	指 標	実績（令和6年度）	目標(令和8年度)	進捗 状況
	「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	実施なし	(小6) 74.0% (中3) 55.0%	—

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「—」調査対象外

54	地域のよさを活かした体験教育の推進	担当課	教育研修所・学校教育課
取組内容 基本計画 P【48頁】	ふるさと三田を愛する心を育て、地域の一員としての自覚を高めるために、「兵庫型体験教育（環境体験事業、自然学校推進事業、トライやる・ウィーク等）」を通じて、地域についての理解を深め、主体的に行動する力を育むとともに、ふるさと三田を愛する心を育てる。		
R6 指導の 重点 【23頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	環境教育、体験活動の充実	○
2 継続	有馬富士自然学習センター、県立人と自然の博物館等、関係機関との連携	○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	各校、地域の人材や教育資源を生かした特色ある活動を通して、自然にふれ合う体験型学習を行うことができた。	
2	各関係機関と連携し、学校では経験のできない独自のプログラムや学習を通して、環境の大切さを学ぶことができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

基本施策 6 幼児期の教育の充実

(1) 生きる力の基礎を育む教育

農村地域の市立幼稚園を集約するなどにより、保育サービスの充実や地域の子育て支援を推進し、魅力を高めることで、望ましい集団規模の確保を図るとともに、地域活性化の資源としても利活用します。

また、幼児一人一人の育ちと学びの連続性を踏まえた教育を充実するために、研修や研究等を通じて、保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質の向上に努めます。

さらに、小学校との円滑な接続を図るため、「さんだっ子かがやきカリキュラム」に基づき、それぞれの施設での教育課程の編成、実施、評価・改善を図ります。

【主な取組】

5 5	★市立幼稚園再編の推進		担当課	幼児教育振興課
関連	9 5 小中学校再編の推進【学校再編課・学校教育課】			
取組内容 基本計画 P【51頁】	小規模化が著しい農村地域の幼稚園について、認定こども園化により多様な保育ニーズに対応することで、よりよい教育環境に向けた集団規模の確保を図るため、再編を推進する。			
R6 指導の 重点 【24頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	新規	三田市立認定こども園みつば幼稚園開園	◎
	2	新規	三田市立認定こども園ありまふじ幼稚園増改築工事	○
	3	継続	認定こども園運営方針等検討委員会の開催	○
	4	継続	職員研修の実施	○
	5	継続	該当園の園児交流等	◎
特筆すべき 取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	2号認定児15名の受け入れを含め、計画どおり開園した。		
	2	令和7年4月開園に向け、概ね計画どおり実施できた。		
	3	計画どおり開催し、地域関係者の意見を認定こども園の開園に反映することができた。		
	4	認定こども園の運営について研修を行い、開園準備を進めた。		
5	計画的な園児交流を重ね、園児・保護者・職員の認定こども園へのスムーズな移行につなげることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

5 6	★幼児教育に係る教職員研修の充実		担当課	幼児教育振興課・保育振興課
取組内容	市全体の就学前施設における教育の質の向上をめざし、教職員の専門性を高める			

基本計画 P【51頁】	とともに、子どもを取り巻く社会的な課題等に対応できる知識の習得を図る。				
分野別リーダー研修の受講状況（保育振興課）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受講者数	123人	125人	103人	131人	118人
テーマ	乳児保育	障害児保育	保護者支援・ 子育て支援	幼児教育	食育・アレルギー 対応
市立幼稚園と保育所の人事交流状況（幼児教育振興課・保育振興課）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
幼稚園	2人	1人	1人	1人	なし
保育所	1人	1人	1人	1人	なし
R6指導の 重点 【24頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	幼稚園元気アップ共育事業		○
	2	継続	市内幼稚園連携推進事業		○
	3	継続	教育研修事業		○
	4	継続	研究推進委員会の開催		○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	保護者や地域の方とともに、開かれた園づくりに取り組んだ。			
	2	市内保育園所・幼稚園・認定こども園の合同研修会を実施した。			
	3	研修会を実施し、教職員の専門性の向上と知識習得を図った。			
	4	各園の研究テーマに基づいた研究、保育内容の交流により、保育の質向上につ ながっている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

57	★市立幼稚園指定研究事業の推進	担当課	幼児教育振興課	
関連	2 授業改善の促進（教育研修所）			
取組内容 基本計画 P【51頁】	豊かな直接的・具体的な体験を通して、「学びに向かう力」を育む保育を創造する とともに、幼児教育の充実に向け、教職員の資質向上を目的とした研究事業を推 進する。			
R6指導の 重点 【24頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	指定研究事業	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	幼児が遊びの中で試行錯誤する姿に視点をあて、環境の構成や援助のあり方を 探り、市内学校園所に公開した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			

改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】			期待効果
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「幼稚園は子どもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合 (学校評価アンケート)		89.5%	90%	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

58	★幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続		担当課	幼児教育振興課	
取組内容 基本計画 P【51頁】	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、アプローチカリキュラムの活用や小学校教諭との連携を深めるなど、幼児教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図る。				
さんだっ子かがやきカリキュラムに基づく研修 (幼児教育振興課・保育振興課)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
テーマ1	実施なし	①	③	⑤	⑦
受講者数		58人	55人	52人	54人
テーマ2		②	④	⑥	⑧
受講者数		76人	61人	56人	55人
テーマ	①	子どもの心の育ちを支える保育者の役割について			
	②	幼児教育・保育施設の横の連携と小中学校の縦のつながりを意識して			
	③	乳幼児の世界と保育			
	④	これからの学校園所の連携			
	⑤	運動あそび			
	⑥	道徳性の芽生え			
	⑦	心と体を育てるリズムジャンプ			
	⑧	乳幼児期の心身の発育・発達			
R6 指導の 重点 【25頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	就学前教育・保育スタンダードカリキュラム「さんだっ子かがやきカリキュラム」の活用		○
	2	新規	架け橋期のカリキュラムの作成と実践		○
	3	継続	合同研修会、カンファレンス等の実施		○
	4	継続	就学に向けた引継ぎ等の連絡会の実施		○
	5	新規	幼児期と児童期の円滑な接続推進事業		◎
特筆すべ	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				

き取組	1	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と照らし合わせ、活用することができた。	
	2	就学前保育施設間の連携を意識し、育ちと学びをつなぐ取り組みを行った。	
	3	研修会や意見交換の機会を設け、職員の情報交流ができた。	
	4	計画的に相互参観や連絡会を実施した。	
	5	県事業「令和6年度幼児期と児童期の円滑な接続推進事業」において、小学校と連携して取り組み、研究のまとめを県教育委員会に報告した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

59	★市立幼稚園の子育て支援の推進		担当課	幼児教育振興課・子ども政策課、 保育振興課	
取組内容 基本計画 P【51頁】	芝生園庭を開放し、親子が集える場を提供したり、講師を招聘し、ベビーマッサージやヨガ等、親子で楽しめる催しを行う。				
地域子育てステーション事業（子ども政策課）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
こども園	12か所	12か所	12か所	12か所	12か所
保育所	9か所	9か所	10か所	10か所	10か所
合計	21か所	21か所	22か所	22か所	22か所
市立幼稚園地域子育て支援事業“げんき”実施状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	中止	45組（4回）	49組（5回）	51組（5回）	35組（3回）
市立幼稚園芝生園庭開放実施状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	39回	23回	43回	35回	36回
R6 指導の 重点 【25頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	保育所・幼稚園等を拠点とした子育て支援の推進		○
	2	継続	市立幼稚園地域子育て支援推進事業“げんき”（市立5園で実施）		○
	3	新規	市立認定こども園地域子育て支援推進事業		○
	4	継続	市立幼稚園及び認定こども園芝生園庭開放（全園実施）		○
	5	継続	地域子育てステーション事業（市内保育施設・私立認定こども園で実施）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	親子がふれ合い、楽しめる時間を共有することができた。			
	2	講師を招聘し、楽しいイベントを開催した。			

	3	就園前児親子の交流広場や、アウトリーチ型子育て支援イベントを実施した。
	4	芝生の心地よさを感じながら、安心して地域の親子が集う場となった。
	5	親子がふれ合い、楽しめる時間を共有することができた。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

60	★市立幼稚園の預かり保育の充実	担当課	幼児教育振興課		
目標値	市立幼稚園の預かり保育の実施日の拡充				
取組内容 基本計画 P【51頁】	再編対象外の市立幼稚園においては段階的に預かり保育の充実を図る。				
市立幼稚園等の預かり保育の実施状況					
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
週5日					
週3日	2園	全園	全園	全園	全園
週2日	7園				
週1日	1園				
R6指導の 重点 【25頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】	
	1	継続	市立幼稚園全園で預かり保育週3日実施	◎	
	2	新規	市立認定こども園で預かり保育週6日実施	◎	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	市立幼稚園全園において週3日の預かり保育を実施している			
	2	市立認定こども園1園において、週6日の預かり保育を実施している			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況	
市立幼稚園の預かり保育の実施日の拡充		週3日：全園	週5日：全園	○	

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

基本施策 7 信頼される学校づくりの推進

(1) 学校組織力の向上

社会に開かれた学校づくりを推進していくため、学校園所情報の積極的な発信やオープンスクールの実施により、保護者や地域住民の学校についての理解を深めるとともに、学校・家庭・地域の連携を進め、地域全体で子どもの成長を支える環境づくりに取り組めます。

また、学校経営における管理職のリーダーシップのもと、学校組織のマネジメント力の強化を図るとともに、多様な教育課題に組織的かつ迅速に対応ができる体制の構築をめざします。

さらに、多様な教育課題に対応するため、教育委員会と学校現場との連携を強化することで、学校組織運営の改善を図ります。

【主な取組】

6 1	開かれた学校園所づくりの推進		担当課	教育研修所・学校教育課・幼児教育振興課	
取組内容 基本計画 P【54頁】	学校園所だよりやホームページ等、様々な媒体の活用やオープンスクール等により、学校園所運営に関する情報を積極的に発信することで、教育活動に対する家庭や地域の理解を深め、それぞれの役割と責任を果たしながら、地域全体で子どもの成長を支える環境づくりを推進する。				
学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上（月平均）の学校数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	22校	18校	27校	26校	25校
R6 指導の 重点 【26頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	コミュニティ・スクール推進事業		○
	2	継続	学校園 HP 等の充実		○
	3	継続	幼稚園元気アップ共育事業		○
	4	継続	オープンスクールの実施		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	教育委員会規則に基づいて全29校に学校運営協議会を設置し、連携と協働の活性化にむけ、学校運営協議会及び学校・家庭・地域連携協力推進にかかる合同研修会を実施した。			
	2	学校運営に関する情報を積極的に発信し、家庭や地域に伝えることができた。			
	3	保護者や地域の方とともに、開かれた園づくりに取り組んだ。			
	4	様々な教育活動の公開が定着している。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等	課題についての対策（案）【A】				期待効果

(R8 向)			
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)
学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上(月平均)の学校数		25校	小中特別支援学校全校
			進捗状況 △

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

6 2	学校評価を活用した教育活動の改善推進	担当課	学校教育課・幼児教育振興課
取組内容 基本計画 P【54頁】	P D C A サイクルに基づく学校評価を実施し、教職員が学校園所運営の成果や課題を共有しながら、積極的に教育活動の改善を図る。また、評価結果を公表することで、家庭・地域による教育活動への理解を深め、社会に開かれた教育課程の実現を図る。		
R6 指導の 重点 【26頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	PDCA サイクルに基づく学校評価の実施と公表(学校HPによる計画書と報告書の公表 全29校)	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】		
	1	学校評価が定着し、具体的な改善につながっている。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】		期待効果

6 3	学校組織運営の改善	担当課	教育総務課
取組内容 基本計画 P【54頁】	管理職のリーダーシップのもと、主幹教諭等の職の活用、校務分掌の見直し、危機管理体制の整備等、教職員が協働して様々な教育課程に組織的かつ迅速に対応するとともにリスクマネジメントの研修機会や支援体制づくりを充実する。		
R6 指導の 重点 【26頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	校長面談における学校運営に係る指導・助言	○
	2 継続	新任教頭研修会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】		
	1	校長面談において、学校の実情に応じて適切に学校運営に係る指導及び助言ができた。	
	2	教頭職の実務が円滑に遂行できるよう研修会を開催することができた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】		期待効果

64	教育委員会と学校の連携強化	担当課	教育総務課・学校教育課
取組内容 基本計画 P【54頁】	教育委員会が学校に出向き、教育現場の実情を把握するとともに、現場の管理職や教職員、実際に学校教育に関わっている地域の方と意見交換を行い、教育現場の取組や課題を共有することで、施策への反映や学校組織運営への支援を充実する。		
R6 指導の 重点 【27頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	学校訪問の実施（春期 14 校、秋期 15 校を訪問）	○
	2 継続	教育懇談会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	全 29 校（春期 14 校、秋期 15 校）への学校訪問を実施し、児童・生徒・教職員及び学校の状況把握、課題の共有を行った。	
	2	けやき台小学校での教育懇談会を開催した。児童の不登校支援、サポートルームの運営状況等の報告を受け、活発な意見交換が行われるなど貴重な機会となった。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

(2) 教職員の資質・指導力の向上

子どもを取り巻く環境の変化に適切に対応できる教職員として求められる資質を育成するため、研修の拠点となる教育研修所の機能を充実させ、教職員のキャリアステージに応じた体系的かつ効果的な研修や専門性の向上を図る研修等の一層の充実を図ります。

また、教職員の世代交代を見据え、教職員と多様な専門性をもつ教職員でのグループ活動により、教育研究を進めるとともに、グループ員の協働的な研究によって指導経験が少ない教職員の指導力の向上を図ります。

市民から信頼され、市民の期待に応える教育を一層充実するため、自らの仕事に対する誇りを高め、教職員という職に求められる倫理観を醸成し、徹底した不祥事の防止に向けた、研修の機会をつくります。

【主な取組】

65	教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立		担当課	教育総務課
取組内容 基本計画 P【56頁】	非違行為を許さないコンプライアンス意識やハラスメントを許さない職場風土づくりにとどまることなく、教職員として、市民からの信頼にも応える、より高い次元での倫理観・職業観の醸成をめざす校内研修や全体での研修を推進します。			
R6 指導の 重点 【27頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	サービスに係る学校訪問の実施	○
	2	継続	コンプライアンス研修の実施	○
	3	継続	非違行為防止に向けた校内研修の推進	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	学校を訪問し、サービスに関する課題点について適切に指導助言することで、非違行為の未然防止に努められた。		
	2	校長会等で綱紀粛正、サービス規律確保に向けた資料を提供し、具体的な事例を提示しながら注意喚起することができた。		
3	非違行為に係る研修資料を作成し、校内研修の実施を推進した。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

66	教育研修所機能の充実	担当課	教育研修所
取組内容 基本計画 P【56頁】	教育書・教材等を置くカリキュラムセンター、タブレット端末、大型モニター等を備えた ICT 研修室、相談室、会議室等、教育研修所の機能を充実する。また、学習指導要領が示す資質・能力の育成に向けた研修、教職員のニーズに応じた研		

	修や相談の機会を広く提供し、教職員の資質・指導力の向上を図る。				
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合 (三田市教育研修所に関するアンケート)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	新指標	98.6%	92.6%	99.2%	91.6%
R6 指導の 重点 【27頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	校内研究の支援、教職員の自主的研修の奨励とサポート		○
	2	継続	ICT 支援員の派遣による授業支援		○
	3	継続	指導案やワークシート、教育書・教材等を置くカリキュラムセンターの充実		△
	4	継続	タブレットパソコン、大型モニタを備えた ICT 研修室、相談室、会議室等、教育研修所の機能の充実		○
	5	継続	タブレット端末を活用したオンライン等による研修環境の整備		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	各校の要望に応じたアウトリーチ型研修を各校に行うとともに、自主研修講座「STEP(ステップ)」を開催し、教職員の自主的な学びの場を提供した。			
	2	定期的な ICT 支援員の巡回訪問を実施し、学校、教員のニーズに応じた支援を行った。			
	4	研修会や会議などで多くの教員に利用された。各部屋に Wi-Fi 環境を整備した。			
	5	オンラインによる会議やアーカイブ配信による研修会を実施した。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
	3	カリキュラムセンターの活用の啓発が弱い。			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果
	3	情報共有が容易に行えるシステムを検討するとともに、利用促進に向けた啓発を行う。			追加・更新データ数増
指 標			実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合(三田市教育研修所に関するアンケート)			91.6%	85%	◎

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「―」調査対象外

67	教職員研修の推進		担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【56頁】	若手教職員から、ミドルリーダー、管理職等、それぞれのキャリアステージに応じた資質・指導力の向上を図るため、各種研修会を開催する。また、様々な教育課題や教職員のニーズを踏まえた研修を推進する。				
教育研修所で研修した教職員（年間延べ人数）※オンライン研修を含む。					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総人数	1,524人	3,695人	2,958人	3,677人	3,680人
内オンライン	931人	2,733人	1,451人	1,478人	1,446人
R6 指導の 重点 【28頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	教職員研修事業（様々な教育課題に対応した共通研修、初任者、2・3年次等の若手からベテラン教職員まで、それぞれの世代に対応した研修、教科・領域等における授業づくり講座の実施など）		◎
	2	継続	三田市立学校指導員制度事業（授業づくり講座の実施、提案授業の公開等）		◎
	3	継続	研究事業（ICT機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善、教科横断的な学習や探究的な学習、情報活用能力の育成、外国語（英語）教育の実施等、学習指導要領が示す資質・能力の育成に関する研究、学校のかかえる重点課題等に応じた研究）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	キャリアステージに応じた様々な研修会を開催することができ、多くの参加者がスキルアップをめざし学ぶことができた。			
	2	学校指導員による「夏季授業づくり講座（10講座）」「公開授業（図工・造形）」には多くの参加者があり、各教科の指導について学びを深めることができた。			
	3	総合学習アプリ、デジタル教科書等の活用を推進することで、協働的な学びが実現し、児童生徒の学習意欲の向上と理解度の深化、思考力の発展、表現力や技能の向上を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
指 標			実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
教育研修所で研修した教員数（年間延べ人数）※オンライン研修を含む			3,680人	2,000人	◎

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、

「△」目標に向け概ね順調に進捗している（目標進捗率 70%以上 90%未満）、「▼」目標に向け順調に進捗していない（目標進捗率 70%未満）、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「－」調査対象外

68	教育研究グループ活動の充実		担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【56頁】	児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を明確に意識した授業の開発、指導内容・方法等について、教科領域ごとの部会に分かれて研究を進める。また、教育課題の解決に向けて、先導的に調査研究を進める。				
教育研究グループの組織率					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	21.7%	18.3%	18.4%	17.8%	19.9%
R6 指導の 重点 【28頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	教育研究グループ研究交流会の開催		○
	2	継続	各部の『活動報告』を職員用 iPad で閲覧		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	研究交流会にて6部会が活動報告をもとに発表、他の7部会は紙上発表により、交流し、学びを深めることができた。また、研究交流会に大阪教育大学特任講師を迎え、助言・講評をいただき、今後の方向性について示唆をいただいた。			
	2	全部会で授業実践を行った成果が活動報告として紹介され、三田市の教職員の今後の授業力の向上につながる資料となっている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
指 標			実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
教育研究グループの組織率			19.9%	全教職員の 20%以上	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している（目標進捗率 90%以上 100%未満）、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している（目標進捗率 70%以上 90%未満）、「▼」目標に向け順調に進捗していない（目標進捗率 70%未満）、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「－」調査対象外

69	ICTを活用した指導力の向上		担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【56頁】	教職員の授業力向上に向けデジタル技術の活用力を高める研修を実施し、タブレット端末・大型モニタ等の ICT 機器の活用を促進する。あわせて、児童生徒が情報を適切に扱えるよう情報モラルに関する指導力向上を図る。また、ホームページの作成、校務支援ソフトの活用、教科書事務等に係る実務研修を行い校務の効率化を図る。				
「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用することができる」と回答する教職員の割合					

(教職員の ICT 活用指導力チェックリスト【文部科学省】)										
経年経過	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
	83.4%		83.5%		84.1%		88.7%		92.8%	
R6 指導の 重点 【28 頁】		種別	具体的取組【D1】						評価【C1】	
	1	継続	GIGA スクール構想を受けて整備された ICT 機器等の活用						○	
	2	継続	総合学習ソフト「ミライシード」の活用						○	
	3	継続	情報教育の推進						○	
	4	継続	「ICT を活用した教材研究・指導の準備・評価」「授業中に ICT を活用した指導」「児童生徒の ICT 活用の指導」等、教員の指導力の向上の推進						○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】									
	1	各学校は、GIGA スクール構想を受けて整備された ICT 機器などを効果的に活用した授業改善に取り組んだ。								
	2	授業支援ツールによる他者参照や共同編集による協働的な学び、デジタルドリルの活用による個別最適な学びを進めている。								
	3	「児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する」教員の割合が増加。								
	4	「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用する」教員の割合が増加。								
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】									
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】								期待効果	
指 標			実績 (令和 6 年度)		目標 (令和 8 年度)		進捗 状況			
「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用することができる」と回答する教職員の割合(教職員の ICT 活用指導力チェックリスト【文部科学省】)			92.8%		100%		○			

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率 90%以上 100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率 70%以上 90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率 70%未満)、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「―」調査対象外

(3) 教職員の働き方改革

教職員の働き方改革の目的は、教育の質の向上です。教職員の勤務時間の適正化に向けた取組や校務におけるデジタル技術の活用を推進するとともに、教職員一人一人のメンタルヘルスの意識改革をするなど、学校における働き方改革を推進します。

さらに、これまでの働き方を見直し、自らの技量を磨くとともに、ワークライフバランスの充実につなげ、日々の質や教職員人生を豊かにして、自らの人間性や創造性を高められる、教職員にとって働きがいのある学校づくりを進め、子どもたちに対してよりよい教育活動を行うようにします。

【主な取組】

70	勤務時間適正化の推進		担当課	教育総務課
取組内容 基本計画 P【57頁】	勤務時間の適正化推進委員会を組織し、各学校の業務量の見直しの取組についての情報を共有し、各学校や地域の実情を踏まえた取組を進める。また、定時退勤日やノー部活デーの完全実施、自動応答メッセージ機能付留守番電話の導入など校務の負担軽減に向けた取組等、対策を講じていく。			
R6 指導の 重点 【29頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	勤務時間適正化推進委員会（年3回）の開催	◎
	2	継続	ワーク・ライフ・バランスの推進	○
	3	継続	定時退勤日（マイ定時退勤日含む）、ノー会議デー、ノー部活デーの完全実施	○
	4	継続	留守番電話（自動応答メッセージ型）の適切な運用の徹底	○
	5	継続	書類の簡素化	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	勤務時間適正化推進委員会を年3回実施し、委員から意見を聴取するとともに、課題となる状況等を把握し今後の取組について協議できた。		
	2	学校訪問にて、勤務時間の適正化と学校業務改善の進捗状況を確認し、今後の方針を協議できた。また、夏季休業中に教職員全体研修として「学校における働き方改革」に関する研修会を開催し、教職員が仕事にやりがいを持ち、心身ともに健康で充実した生活を実現していけるよう取組を進めた。		
	3	定時退勤日（マイ定時退勤日含む）、ノー会議デー、ノー部活デーの完全実施に努めるよう推進できた。		
	4	令和4年度から全校へ導入しており、適切に運用できた。		
	5	押印を廃止し、電子化を進めるなど書類の簡素化に努めた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

7 1	校務におけるデジタル技術の活用推進		担当課	教育研修所
取組内容 基本計画 P【57頁】	出欠情報や成績情報などの一元管理、電子化を行う校務支援システムの充実を図る。また、教職員間の情報共有やオンライン会議の開催により、校務の効率化を進め、子どもと向き合うための時間を確保するとともに、教職員の負担の軽減を図る。			
R6 指導の 重点 【29頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	校務の情報化の推進	○
	2	継続	校務支援システムバージョンアップ	○
	3	継続	グループウェアおよび校内共有データ、市内共有データ、クラウドの共有ドライブを活用した情報交換と情報共有の推進	○
	4	継続	総合健康管理ソフトの運用による子どもの健康データの管理	△
	5	継続	Web 会議ツールや研修動画配信の活用によるオンライン会議や研修の充実	○
	6	継続	アンケートの電子化	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	校務支援システムや汎用クラウドの活用に関する環境の整備が進んでいる。		
	2	校長会や教員等の意見を参考にバージョンアップを検討し、随時実施している。		
	3	汎用クラウドを活用した情報共有を推進している。		
	5	オンラインやアーカイブ配信による研修会を実施。		
	6	委員会からの調査アンケートを電子化している。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	4	校務支援システムと総合健康管理ソフトが別システムで稼働しているため、データを一元管理できない。		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
	4	文科省は県での統一校務システム導入を推進している。この動向を注視しながら、システム導入に関する検討を進めていく。		データの一元管理
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
ICT 支援員の数		5 人	7 人(4校に1人)	△

※進捗状況 「◎」 目標を達成(100%以上)、「○」 目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」 目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」 目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」 令和3年度実績を下回っている、「-」 調査対象外

72	教職員のメンタルヘルスの保持増進	担当課	教育総務課	
取組内容 基本計画 P【57頁】	教職員の心身の健康管理に配慮するとともに、研修や相談体制の充実を図ること で、教職員の精神・神経系疾患を未然に防止する。また、ストレスチェックの実 施率を上げ、セルフケアやラインケアの推進、高ストレス者へのサポートを行う。			
R6 指導の 重点 【29頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	メンタルヘルス研修の実施	◎
	2	継続	ストレスチェック（年2回）の実施	◎
	3	継続	長時間勤務者に対する産業医等による面接指導の推進	○
	4	継続	臨床心理士による「こころの健康相談」の開催	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	「教職員のためのメンタルヘルス研修会」を開催し、教職員が心の健康状態に ついての理解を深め、精神状態をケアする方法を身に付けるとともに、働きや すい職場環境づくりに向けて取組を進めた。		
	2	年2回ストレスチェックを実施し、全教職員が積極的にセルフチェックに努め られるよう推進するとともに、職場環境の改善につなげるため、ストレスチェ ックの集団分析結果を学校長に提示した。		
	3	記録簿で長時間勤務者を把握し、学校長と連携しながら産業医等による面接指 導の推進に努めた。		
	4	教職員の心の健康状態を把握し、三田市主催の臨床心理士による「こころの健 康相談」を受けられるよう推進できた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

基本施策 8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

(1) 学校・家庭・地域の連携と協働

学校・家庭・地域が相互に連携し、それぞれの役割を果たす中で、子どもの成長を支える活動を推進するとともに、校区の実情に合ったコミュニティ・スクールを充実させていきます。

また、青少年の健全育成や世代間交流、体験活動等、学校・家庭・地域・関係機関等との連携により、子どもの育成活動を推進します。

【主な取組】

73	★学校・家庭・地域の連携による事業の推進		担当課	子ども育成課		
取組内容 基本計画 P【60頁】	学校支援ボランティアや放課後子ども教室を地域や学校に周知し、未来を担う子どもの成長を地域と学校が連携・協働して、地域全体で支えていく活動を推進する。					
★学校支援ボランティアの年間延べ活動日数						
経年経過	令和2年度 2,608日	令和3年度 3,252日	令和4年度 4,414日	令和5年度 4,984日	令和6年度 5,175日	
学校支援ボランティア登録者数						
経年経過	令和2年度 489人	令和3年度 443人	令和4年度 438人	令和5年度 465人	令和6年度 470人	
活動ボランティア数						
経年経過	令和2年度 17,985人	令和3年度 32,387人	令和4年度 18,195人	令和5年度 30,277人	令和6年度 29,803人	
こうみん未来塾開催状況						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
①	回数	34回	26回	39回	38回	34回
	人数	882人	798人	870人	1,035人	845人
②	回数	6回	9回	14回	19回	17回
	人数	217人	323人	563人	843人	816人
③	回数	13回	22回	27回	33回	24回
	人数	1,405人	1,570人	1,886人	1,094人	937人
④	回数			1回	1回	1回
	人数			2,302人	2,267人	2,018人
⑤	回数			34回	24回	17回
	人数			2,411人	1,711人	1,634人
合計	回数	53回	57回	115回	115回	93回
	人数	2,504人	2,691人	8,032人	6,950人	6,250人
講座	① 地域が主役コース、② 地域でお試しコース、③ 全市版みんなで体験コース、					

④ サイエンスフェスティバル ⑤学校向けプログラム				
R6 指導の 重点 【31 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】	
	1	継続	学校支援活動促進事業	◎
	2	継続	放課後子ども教室推進事業	▼
	3	継続	こうみん未来塾（地域版）	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	学校からの支援に対するニーズの高まりと地域の活動への関心が向上した。		
	3	開催日数及び参加者数は一定数で安定している。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	2	地域の実情や子どもの環境に沿ったニーズが多様化してきている。		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果	
	2	開催団体への適切なサポート及び未開催校区への開催の働きかけなどを行っていく。	教室開催数増と内容の充実	
指 標		実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
学校支援ボランティアの年間延べ活動日数		5,175 日	4,350 日	◎

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

74	コミュニティ・スクールの充実	担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【60 頁】	地域ぐるみで子どもの育ちを支えるコミュニティ・スクールをさらに充実し、家庭・地域との持続的な連携と協働による「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。また、地域学校協働活動との一体的推進により、地域とともにある学校づくりを推進する。			
R6 指導の 重点 【31 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】	
	1	拡大	法に基づくコミュニティ・スクールの実施 (小学校20校、中学校8校、特別支援学校1校)	○
	2	継続	小規模特認校支援事業(母子小学校)	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】			
	1	教育委員会規則に基づいて全29校に学校運営協議会を設置し、連携と協働の活性化にむけ、学校運営協議会及び学校・家庭・地域連携協力推進にかかる合同研修会を実施した		
	2	特認校支援事業を実施し、放課後子ども教室を実施した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】			
	1			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】		期待効果	
	2			

75	PTA活動の支援		担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【61頁】	本市内の各PTAが一層充実した活動を展開できるよう継続的な研修の実施を支援するとともに、定期的な情報提供や意見交換を行うなど、家庭での子どもたちの心身の健全育成に向けた取組の充実を支援する。			
R6指導の 重点 【32頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	三田市PTA連合会主催による各単位PTAの代表者による情報交換会を開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	年間2回の情報交換会を実施し、各PTAの取り組みについて情報交換することができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

76	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【61頁】	学校・家庭・地域が育てたい力を共有しそれぞれの役割を果たすことにより豊かな感性や創造性、自ら考え主体的に行動し問題を解決する力を育む。また、「トライやる」アクション等において、生徒が地域で活躍し、貢献することによりふるさと意識の醸成を図る。				
「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合 (地域も学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	実施なし		96.2%	97.2%	96.2%
R6指導の 重点 【32頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】	
	1	継続	トライやる・ウィーク推進事業（県事業）	○	
	2	継続	三田市トライやる・ウィーク推進協議会及び三田市トライやる・ウィーク検討委員会の開催	○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	学校・家庭・地域が連携し、生徒の主体性や問題を解決する力を育むことができた。			
	2	推進協議会で出た意見をもとに、トライやる・ウィークの取組を周知するためのチラシを三田市内の事業所に配布することができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
指 標			実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況

「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合（地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査）	96.2%	95.0%	◎
---	-------	-------	---

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「－」調査対象外

77	★子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進		担当課	子ども育成課
取組内容 基本計画 P【61頁】	学校・家庭・青少年健全育成関係団体等の地域が連携し、地域全体での見守り活動や声掛けなどにより、子どもたちが健やかに成長し、安心して過ごせる地域づくりを進める。また、デジタル技術が急速に進展する社会において、子どもたちが安全にかつ適切にインターネットを利用できるよう啓発を進める。			
R6 指導の 重点 【32頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	青少年補導員による街頭補導・啓発活動	○
	2	継続	有害図書類の回収	△
	3	継続	地域青少年健全育成推進事業補助	○
	4	継続	青少年問題協議会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】			
	1	各地域における青少年補導員の巡回等が非行防止の啓発につながった。		
	3	各地域において特色ある事業が実施された。		
	4	こども110番の家の普及とSNSトラブルの防止について取り組みに加え、不登校の問題についても協議し取り組みを進めることとなった。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】			
	2	白ポストにより有害図書類を回収しているが、有害な画像や映像等の掲載元が従来の書籍やDVD等からインターネット上へと移行しており、新たな対策が必要となっている。		
改善策等 (R8向)	課題についての対策(案)【A】			期待効果
	2	白ポストの意義を再検証し、今後の存続も含めた検討を行うと同時に、ネットトラブル等に対する啓発や学習を行う。		有害環境の排除

78	余裕教室の活用		担当課	教育総務課
取組内容 基本計画 P【61頁】	学校の余裕教室を活用し、地域の大人が子どもに関心を持ち、世代間の交流を深め、学校と地域の連携を図るとともに、良好な地域コミュニティづくりに向けた取組を推進する。 また、地域イニシアチブ制度に基づく余裕教室について、学校、地域等との連携を図り有効活用していく。			
R6 指導の 重点 【32頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	市民へ余裕教室活用の周知	○
	2	継続	余裕教室ガイドラインに基づき指定校を市ホームページ	○

		ージに掲載	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	ホームページに公表し周知を図った。	
	2	つつじが丘小学校を指定し、ホームページに掲載した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

79	★新・放課後子ども総合プランの推進	担当課	子ども育成課		
取組内容 基本計画 P【61頁】	子どもが放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行うことができるよう放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携を推進する。				
★放課後子ども教室の年間延べ開催日数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	1,042日	918日	1,355日	1,377日	1,401日
放課後児童クラブ利用者数（15小学校区32クラブ）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	1,025人	985人	1,035人	1,036人	1,070人
放課後子ども教室（委託事業）					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
開催校区	15小学校区	15小学校区	15小学校区	16小学校区	15小学校区
開催日数	1,042日	918日	1,355日	1,377日	1,401日
活動者	4,285人	4,111人	5,965人	6,028人	6,844人
参加者	15,074人	13,584人	22,978人	25,813人	25,067人
R6指導の 重点 【32頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	放課後児童クラブ		○
	2	継続	放課後子ども教室		△
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	児童クラブの児童が、同一小学校内で開催される放課後子ども教室へ参加できるよう取組を進めている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	2	全体的な参加者数は減少しているが、開催校区数減少に起因していることも要因のひとつである。1校区あたりの年間開催日数は増加傾向であり、内容の充実が図られている。			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
	2	未開催校区に本事業を紹介するとともに、ニーズに合わせて		開催日数増	

	働きかけを継続していく。		
指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
放課後子ども教室の年間延べ開催日数	1,401日	2,040日	▼

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「―」調査対象外

(2) 家庭・地域の教育支援

子育てやしつけについて学ぶ機会や様々な悩みや心配事への相談体制を充実するとともに、多世代交流の場を提供することで家庭の教育力の向上を図ります。

また、子どもの権利を守るため、地域における人権研修や学習機会を充実することで、子どもの人権やいのちの大切さについてより多くの市民が理解を深めることができるよう努めます。

【主な取組】

80	★家庭教育学級の充実		担当課	子ども育成課	
取組内容 基本計画 P【62 頁】	子どもを中心に、保護者どうしが交流を深め、自らの学びの機会や地域参画への機会と位置づけ、家庭・地域の教育力の向上に努める。				
家庭教育学級の実施状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実施校区	8校	13校	16校	17校	14校
講座数	19講座	24講座	31講座	45講座	37講座
フォーラム	3回	2回	1回	2回	1回
R6指導 の重点 【33頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	家庭教育充実事業（家庭教育学級事業補助、合同運営委員会の開催、合同フォーラム（全市版）の開催など）			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	学校の教員が講師となる等、学校との連携が強化されている			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

81	★子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充		担当課	子ども家庭課・子ども政策課	
取組内容 基本計画 P【62頁】	<p>家庭児童相談室に設置する「三田市子ども家庭総合支援拠点」※を中心に、子育てする上での様々な悩みや心配事等の養育相談の充実を図る。また、要保護児童対策地域協議会、保健及び福祉、教育における関係機関との連携強化を図り、養育支援を必要とする家庭を早期に発見し、速やかに必要なサービスや地域リソースに有機的につなぐなど適切な支援の充実を図る。</p> <p>※児童福祉法改正に伴い R5 年度から子ども家庭課に設置していた「三田市子ども家庭総合支援拠点」と子育て世代包括支援センター「チャッピーサポートセン</p>				

	ター」を一体化し「三田市子ども家庭センター」として運営している。			
R6 指導の 重点 【33 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	新規	子ども家庭センターの運営	◎
	2	継続	家庭児童相談（24 時間・365 日対応）	◎
	3	新規	要支援家庭等へのサポートプランの作成	◎
	4	継続	未就園児等全戸訪問・アウトリーチ事業	◎
	5	継続	要支援家庭への家事ヘルパー派遣事業	◎
	6	継続	親子関係形成支援事業（ペアレントトレーニング等）	◎
	7	拡充	子育て負担軽減事業（レスパイト利用のための子育てショートステイ等）	◎
	8	継続	要保護児童地域対策協議会の運営	◎
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果物）【D2】			
	1	子ども家庭センター設置により、母子保健機能と児童福祉機能の一体的相談体制を作ることができた。		
	2	1, 309 件の家庭児童相談に応じることができた。		
	3	合同ケース会議を開催し、サポートプランを作成することができた。		
	4	対象者全員の状況把握を行うことができた。		
	5	要支援家庭への家事ヘルパーを調整し、支援を行うことができた。		
	6	120 人を対象にペアレントトレーニングを実施することができた。		
	7	必要に応じて利用調整を行うことができた。		
	8	昨年引き続き関係機関との連携を行うことができた。		
課題等	上記具体的施策に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

82	★青少年相談の充実		担当課	子ども育成課	
取組内容 基本計画 P【62 頁】	青少年期における友人関係や学校生活、進路、親子関係等の悩みについて、解決に向けての相談業務を行う。学校や関係機関との連携を強化して、より適切な対応や健全な心の成長に関する支援の充実を図る。				
青少年相談件数					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
	129 件	214 件	167 件	199 件	175 件
R6 指導の 重点 【33 頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	青少年相談事業		○
課題特筆 すべき取	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	不登校に関する相談が大半を占め、民間支援者との連携を深めたことにより、			

組	相談者への情報提供等を強化した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

8 3	★世代間交流活動の支援	担当課	子ども政策課
取組内容 基本計画 P【62 頁】	若い世代やシニア世代等が集う「多世代交流館シニア・ユースひろば」で、小中高生から高齢者までの多様な世代や地域ボランティアとの交流を促進する事業の実施とひろばの運営を行う。		
R6 指導の 重点 【34 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	多世代交流館シニア・ユースひろばの運営	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	ボランティアと協働し、シニア・ユースひろば全体を使った交流イベントを実施した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

8 4	★子どもの人権やいのちの大切さの啓発	担当課	人権共生推進課
取組内容 基本計画 P【63 頁】	子どもの人権やいのちの大切さの理解を深めるため、「三田幸せプロジェクト」において、「子どもの人権について考える」分科会の設置など子どもの自尊感情を育み人権を尊重する研修の充実に取り組む。		
R6 指導の 重点 【34 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	「三田幸せプロジェクト」において、「子どもの人権について考える」分科会の設置	○
	2 継続	人権啓発誌「人権さんだ」で「子どもの人権」についての記事を掲載	○
	3 継続	「さんだ子ども相談カード」を市内小学生に配布	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	隔年での開催のため、令和7年度の開催に向けて検討を行った。	
	2	人権啓発誌「人権さんだ11月号」で、特集「子どもの人権を考える」を掲載した。マルチリートメント（※）についての啓発を行った。 ※マルチリートメント：避けるべき子どもへの関わり方	
	3	「さんだ子ども相談カード」を市内小学生に配布した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		

改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】		期待効果

8 5	★人権に関する研修や学習機会の充実		担当課	人権共生推進課	
取組内容 基本計画 P【63 頁】	部落差別をはじめ、あらゆる差別を解消し、誰もが幸せと感じる人権尊重のまちを実現するため、「人権と共生社会を考える市民のつどい」や地域で市民参画の啓発講座等の充実を図るとともに、性的マイノリティ等の新たな課題についての啓発に取り組む。				
「人権と共生社会を考える市民のつどい」の開催状況					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
	中止	482 回(オンライン開催)	176 人(オンライン415回)	211 人	261 人
性的マイノリティ研修の受講者状況					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
	なし	482 人 (市民のつどいにて開催)	14 人	21 人	18 人
R6 指導の 重点 【34 頁】		種別	具体的取組 【D1】		評価 【C1】
	1	継続	「人権と共生社会を考える市民のつどい」の開催		○
	2	継続	「人権啓発企画講座」の充実		○
	3	継続	性的マイノリティ支援の具体的取り組み		○
	4	継続	人権に関する相談窓口の充実		○
	5	継続	インターネット差別書き込みモニタリングの実施		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容 (成果) 【D2】				
	1	アンコンシャスバイアス (※) に関する講演や、市内小・中・高校生による人権作文発表を実施した。 ※アンコンシャスバイアス：無意識の思い込み			
	2	4 講座を開催した。(参加者数のべ 217 人)			
	3	人権啓発誌「人権さんだ 10 月号」で、特集「性的マイノリティについて考える」を掲載した。			
	4	くらしの人権相談を実施した。(令和 6 年度相談件数 214 件)			
	5	モニタリングを 33 回実施した。(削除依頼件数 2 件、うち削除済 0 件)			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題 (主な原因) 【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】			期待効果	

基本施策 9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

(1) 学習成果を活かす仕組みづくり

青少年期からの自主的な「学び」を支援するとともに、地域の大人が培ってきた学習の成果を子どもたちに活かすため、地域人材の育成や仕組みづくりに取り組み、循環型の生涯学習社会の実現をめざします。

【主な取組】

86	★子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用			担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画 P【64頁】	地域の生涯学習の拠点としての社会教育施設等を積極的に活用し、市民の自主的な学びを支援しながら、地域の人材育成を推進するとともに学びの成果が次世代に還元されるよう仕組みづくりを進める。				
施設来場者数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
有馬富士	65,996人	74,253人	75,947人	89,244人	95,224人
野外活動	27,969人	29,747人	32,744人	(上半期)23,897人	(日帰りのみ)11,552人
ガラス館	8,417人	10,166人	14,540人	13,668人	14,302人
R6 指導の 重点 【35頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	野外活動センターの運営（野外活動を通じて自然に親しむ場を子どもたちに提供）		○
	2	継続	有馬富士自然学習センターの運営（自然と親しみ学ぶことで、ふるさと意識を高める）		○
	3	継続	ガラス工芸館の運営（子どもの文化教育のため創作活動の場を提供）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	市直営により再開し、誰もが気軽に自然にふれ楽しめる機会を提供した。			
	2	子ども向けの体験イベントやワークショップ、学校向けプログラム、ジュニアスタッフの人材育成等を実施した。			
	3	季節等に応じて、子ども向けの特別講座や特別体験を実施した。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

87	★子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材育成の推進			担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画	図書館を拠点に、ボランティア希望者、保護者、学校関係者等を対象として、子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材の育成に取り組む。				

P【64頁】				
R6 指導の 重点 【35頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	市立図書館の運営（小・中学生、大人別の「調べる学習教室」を開催）	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		調べる学習コンクール作品の作成にあたり、調べ学習の方法やレポート作成の方法の助言を行った。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

88	★三田の自然を学び、活用するジュニアスタッフの育成		担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画 P【64頁】	県立有馬富士公園の豊かな自然環境を活かし、人と自然の博物館と連携した、自然を学び活用するジュニアスタッフの育成を進める。			
R6 指導の 重点 【35頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	有馬富士自然学習センターの運営（三田市有馬富士自然学習センターの仕事を体験しながら自然について学ぶジュニアスタッフを育成）	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		生き物調査、展示物の制作、ワークショップの準備・実施等を毎月1回以上行った。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

(2) 多様な学習機会の創出

子どもたちに様々な学びと体験の機会を提供することで、「科学技術に親しみを感じる子」、「グローバルに活躍する気概をもつ子」、「チャレンジ精神旺盛な子」の育成を推進します。

また、地域の豊富な物的・人的な学習資源を積極的に活用し、多様な学習機会を創出することで、地域の自然、歴史・文化や芸能活動に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する心をもつ子どもを育てます。

【主な取組】

89	★「こうみん未来塾」の推進		担当課	子ども育成課	
取組内容 基本計画 P【65頁】	本市の豊かな教育資源・地域資源（大学、博物館等）とデジタル技術を活かし、子どもたちが本物にふれる機会をもてる「こうみんプログラム」を通して、子どもたちの探究心を刺激する体系的で連続した学びを創出し、感性や好奇心、創造力を育み、新しい発想をもって活躍できる力を育成する。				
★こうみん未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	新規指標		45人	36人	30人
R6指導の 重点 【36頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
1	継続	こうみん未来塾の実施（全市版・探究コース・さんだサイエンスフェスティバル）			▼
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
1	知識の享受～発表まで一連の学びの充実した体験を提供しているが、テーマを絞った内容なので、ターゲットが限られるうえ、事務局の負担が大きいため開催数が限られる。				
改善策等 (R8向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
1	委託を検討する。			同時期に複数講座の開催が可能	
指 標			実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
★こうみん未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数			30人	200人	▼

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、

「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「－」調査対象外

90	★地域の伝統文化の継承の推進		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【65頁】	子どもたちに地域の伝統芸能などへの理解を進め、「知り・守り・育てる」機会を創出する。伝統文化の継承を進め、周知することでふるさと意識の醸成を図る。				
郷土学習プログラムの運営状況					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
出前講座	64人(1校)	64人(1校)	219人(3校)	194人(3校)	633(4校)
出前展示	3回(3校)	2回(2校)	2回(2校)	2回(2校)	0回(0校)
R6指導の 重点 【36頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	郷土学習のプログラム運営(出前講座・郷土学習など)		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	三田青磁や祭りについて等、新たなテーマでの出前講座依頼があった。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
改善策等 (R8向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果

91	★歴史資料を活用した体験学習の推進		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【65頁】	市の所蔵する数多くの歴史資料を活用し、文化財施設や学校への出前講座・展示、体験学習を通じて、ふるさと意識や郷土への愛着心を育む機会を提供する。				
ふるさと学習館、旧九鬼家住宅資料館					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
来館	38人(1校)	346人(6校)	404人(8校)	382人(7校)	416人(7校)
アウトリーチ	471人(2校)	290人(4校)	実施なし	実施なし	189人(1校)
体験学習(三輪明神窯史跡園)					
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
来館	145人(14回)	92人(10回)	156人(13回)	138人(5回)	149人(5回)
アウトリーチ	1,260人(30回)	1,343人(36回)	1,134人(38回)	606人(10回)	598人(10回)
R6指導の 重点 【36頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	ふるさと学習館、旧九鬼家住宅資料館、三輪明神窯史跡園の運営(文化財の展示・出土品の公開・体験学習の実施など)		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	令和6年度から校長会で施設案内やアウトリーチ等の事業内容について周知を行った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				

改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】				期待効果

9 2	★有馬富士自然学習センターを活用した学校教育支援				担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画 P【65 頁】	県立有馬富士公園の豊かな自然環境を活かし「有馬富士公園生態園（林の生態園・草地の生態園・水辺の生態園）」を学習の場とする学校教育支援を進める。					
有馬富士自然学習センタースクールサポート事業プログラム運営の参加者数						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	1,615人	1,103人	1,913人	2,082人	2,496人	
R6 指導 の重点 【36 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1 継続	有馬富士自然学習センタープログラム運営（県立人と自然の博物館のプログラム事業において、有馬富士公園内のフィールドワークを実施）			○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	小学校や幼稚園向けの体験プログラムやワークショップを実施した。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					
改善策等 (R8 向)	課題についての対策 (案) 【A】				期待効果	

9 3	★図書館を通じた「学び」の支援の推進				担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画 P【66 頁】	子どもたちに本に親しむ機会や自主的な学びを行えるよう資料の提供及び人的支援を行う。また、調べる学習コンクールやイベントの開催、電子図書館の活用、移動図書館による館外サービスの実施等、多様な読書活動の機会づくりを行う。					
★図書館見学及び移動図書館サービス（定期巡回以外）を利用した小中学校の数						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	1校	2校	2校	3校	6校	
R6 指導の 重点 【37 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1 継続	市立図書館の運営			○	
	2 継続	子どもの読書活動支援			○	
	3 継続	「図書館を使った調べる学習コンクール」三田市大会の開催			○	
	4 継続	図書への団体貸出の推進			○	
	5 継続	移動図書館を活用した、学校支援活動の充実			○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	本館、ウッディタウン分館、藍分室、移動図書館において児童書の貸出、イベ				

	ント等を実施し、子どもの読書支援、読書機会づくりを行った。			
2	おはなし会、児童書の展示、イベント等を実施した。			
3	コンクール開催とともに、作品制作を支援する調べる学習教室を実施した。			
4	学校における調べ学習や地域等における読書活動を推進するため、1団体200冊2カ月の団体貸出を実施した。			
5	移動図書館で学校を訪問し、おはなし会や本の貸出を実施した。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果		
	指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
	★図書館見学及び移動図書館サービス(定期巡回以外)を利用した小中学校の数	6校	7校	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

94	★総合文化センターでの文化芸術の普及・育成の推進				担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画 P【66頁】	総合文化センターでは、学校等において、文化芸術の鑑賞機会を設ける（アウトリーチ活動）ことで学齢期からの豊かな人間性を育む機会を創出する。					
★学校訪問コンサート（アウトリーチ活動）を利用した小学校						
経年経過	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	18校	17校	19校	19校	20校	
R6指導の 重点 【37頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1 継続	総合文化センターの運営			◎	
特筆すべき 取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	市内小学校全20校でアウトリーチ活動を実施した。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果	
	指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況		
	★学校訪問コンサート（アウトリーチ活動）を利用した小学校	20校	小学校全校 (20校)	◎		

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、

「△」目標に向け概ね順調に進捗している（目標進捗率 70%以上 90%未満）、「▼」目標に向け順調に進捗していない（目標進捗率 70%未満）、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「－」調査対象外

基本施策 10 学びを支える環境の整備

(1) 学校の再編

農村部においては学校の小規模化がさらに進行することが予測されます。ニュータウンなどの都市部でも学校の小規模化に伴う課題が顕在化していることから、市全体における学校再編について、一定の考え方を示し、これら課題の解消のため、具体的な手法等も含め保護者、地域と協議していきます。また、小中一貫教育をより効果的に展開する場合の学校の形態として、小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校などについても検討を進め、小規模化に伴う課題を解消する方法を幅広く検討していきます。

学校再編に際しては、子どもたちが安全安心に通学できるよう十分配慮するとともに、余裕をもって子どもに教育指導ができる教職員配置を行い、学習指導の充実を図ります。

【主な取組】

95	小中学校再編の推進		担当課	学校再編課・学校教育課
関連	55 市立幼稚園再編の推進【幼児教育振興課】			
取組内容 基本計画 P【68頁】	三田市立学校のあり方に関する基本方針をもとに、児童生徒の教育環境の充実を図るため、保護者や地域住民の意見を踏まえ、小中学校の再編に取り組む。また、小中一貫教育をより効果的に展開する場合の学校の形態として、小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校などについても検討を進め、小規模化に伴う課題を解消する方法を幅広く検討していく。			
R6 指導の 重点 【38頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	拡大	上野台・八景中学校の新設統合に向けた推進 両校を統合し、新設することにより上野台中学校の小規模化に伴う課題と八景中学校の地理的、地形的な課題を解消し、教育環境の充実を図る。 ①新設統合校建設に向けた新しい学校の基本構想策定など〔新統合中学校基本構想・基本計画策定等業務委託(R6～R7年度)〕 ②用地取得に向けた関係機関等との協議など〔新統合中学校用地補償総合技術業務委託(R6～R8年度)〕	○
	2	継続	富士小学校及び弥生小学校の再編 フラワータウン再生まちづくりの進捗と連携、調整して取り組む	△
	3	継続	その他の校区 学校のあり方に関する基本方針(平成30年7月)に示す適正規模(小学校は12～18学級、中学校は9～18学級)に満たない学校を対象に、小規模化に伴う	—

		課題について話し合う場を持つ等検討	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	<p>①上野台中学校と八景中学校の統合に伴う、新中学校の整備にあたり、より良い学校づくりをめざす上で、対象校区の児童生徒・保護者・地域住民、市立学校の全教職員を対象にアンケートを実施し、意見を聴くとともに、これまでの経過や近年の動向、両校の現状等を踏まえ、施設整備に関わる設備、機能などの基本的な考え方や方向性を示す、新統合中学校基本構想を策定(R6)し、基本計画の策定(R7)につなげていく。</p> <p>②両校の統合に伴う新中学校の整備予定地について、慎重な検討を重ね決定し、地元住民説明会(R6.12)を開催し、場所や開校目標年度を公表するなど、用地取得、整備に向けた取組を進めた。</p>	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
	2	<p>フラワータウンでは、若年層の誘致、子育て層の移住促進など、まちの再生に向けた取り組みが進められてきており、その状況を注視する必要があるため、協議を一時中断していたが、当該校区での児童数の大幅な増加は難しく、両校の学校運営協議会(R7.2)で、これまでの経過説明を行うとともに、学校再編協議の再開も含め、意見を聴く機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5.2.1 三田市立富士小学校及び弥生小学校再編地域協議会（第1回全体会） ・R5.2.20,21 地域協議会 第1回部会（各校区 計2回） ・R5.3.21～5.13 説明会実施（計6会場、173人参加） ・R5.6.3,11 地域協議会第2回部会（各校区 計2回） ・R5.8.23 地域協議会第3回部会（各校区）開催を延期（一時中断） ・R7.2.6,20 学校運営協議会（弥生小、富士小） 	
	3	<p>藍、長坂校区においては、両中学校の再編計画の取り下げ以降においても、小規模な単位(PTA 役員)での意見交換や学校長への聞き取りを実施してきており、学校の小規模化に伴う課題を共有し、理解を深めるとともに、その解消に向けた様々な方策について、幅広く検討していく。また、上野台・八景中学校区の小学校についても、今後の学校のあり方、教育環境の向上に向け、適切な時期に議論を開始していく必要がある。</p>	
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果
	2	フラワータウン再生の取り組み状況等について保護者、地域住民と情報共有し、改めて、今後の学校のあり方等について検討していく。	学校の小規模化に伴う課題の共有、教育環境の向上
	3	学校の小規模化に伴う課題を共有し、理解を深める取り組み等を継続していく。	

(2) 安全安心で充実した環境の整備

学校施設について、学校再編の全体像を示す中で、施設の老朽化・劣化状況等も総合的に勘案し、大規模改修等を計画的に行うなど、安全で魅力ある学校施設環境を維持していきます。

また、学校給食施設、設備の保全を図るとともに、児童生徒数の減少に伴う学校給食の提供体制のあり方について検討を進めます。

子どもたちが安全安心に通学ができるよう、三田市通学路交通・防犯安全プログラムに基づき、関係機関等が連携して通学路の合同点検等を実施するなど、通学路の安全性の向上を図ります。また、防犯カメラや警備システム等の活用、地域や関係機関と連携した見守りの推進など、子どもたちの安全を確保する体制の充実に努めます。

新型コロナウイルス感染症の流行により得た経験から、いかなる状況においても子どもたちが持続的に教育を受けることができるよう ICT 機器の整備、充実など、教育環境の整備に取り組みます。

【主な取組】

96	学校施設の整備・充実		担当課	教育総務課・幼児教育振興課		
取組内容 基本計画 P【69頁】	学校施設の大規模改修等について、施設の老朽化・劣化状況等も総合的に勘案し、計画的に改修を行う。また、エレベーター、階段手すりの設置やトイレの洋式化等バリアフリー化を進めるとともに、省エネ、防災等にも配慮した施設整備を行う。					
校舎の洋式便器 1 基あたりの児童生徒数						
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
女子	14.3 人	14.4 人	12.5 人	11.1 人	10.4 人	
男子	20.9 人	20.8 人	19.6 人	17.1 人	15.9 人	
R6 指導の 重点 【39頁】		種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	拡大	学校園施設の教育環境改善整備事業 小学校大規模改修【三田小改修設計、三輪小改修工事（I期）】、エレベーター設置設計【あかしあ台小、ゆりのき台中】、LED化【松が丘小、ゆりのき台小】			○
	2	新規	三田市立認定こども園ありまふじ幼稚園増改築工事			○
	3	新規	三田幼稚園改修設計			○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	三輪小大規模改修工事（I期）により、施設の長寿命化対応を行うとともに、トイレの洋式化によるバリアフリー化及び照明設備の LED 化による省エネ化を進めた。松が丘小、ゆりのき台小でも照明設備の LED 化を実施した。				
	2	令和 7 年 4 月開園に向け、計画どおり実施できた。				
	3	令和 7 年度の大規模改修に向け、予定どおり設計を終えた。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					

改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】		期待効果
	指 標	実績 (令和6年度)	目標 (令和8年度)
	校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	(女子) 10.4人 (男子) 15.9人	(女子) 10人以下 (男子) 20人以下
			進捗 状況 ○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

97	学校給食施設等の整備・充実	担当課	学校給食課
取組内容 基本計画 P【70 頁】	持続的で安全安心な学校給食の提供に向け、定期的なメンテナンスに加え、職員による日常点検を実施し、施設設備の保全を図り、良好な状態に保つとともに、児童生徒数の動態等の変化も注視しながら、学校給食施設及び提供体制のあり方について検討を進める。		
R6 指導 の重点 【39 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続 複数人での調理器具、設備等の点検の徹底	○
	2	継続 計画的な施設設備メンテナンスの実施	○
	3	継続 適時に施設整備、及び修繕の実施	△
	4	継続 将来的な給食提供のあり方検討	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】		
	1	日頃から使用機器には異常な音や動きが無いか確認して使用している。	
	2	大規模厨房機器改修の時期に到達しており、今後は多額の費用を要する時期を迎えている。	
	4	食物アレルギーに対応した献立作り、調理・確認体制の確立について検討した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】		
	3	将来的な児童・生徒数を見越した給食センター整備運営手法について、引き続き検討を要する。	
改善策等 (R8 向)	課題についての対策(案)【A】		期待効果
	3	パブコメ等幅広く意見を聴く。	将来のセンターの方向性がまとまる。

98	学校園安全体制の充実	担当課	教育総務課・危機管理課・幼児教育振興課
取組内容 基本計画 P【70 頁】	学校において、災害に備えた適切な施設設備の整備・点検を行うとともに、避難所となる場合の対応を含め、防災体制の充実に努める。 また、犯罪の抑止、万が一の事案発生時の対応のため、学校・幼稚園に設置している防犯カメラの更新、増設など、安全管理に関する施設面の充実を図る。		
R6 指導の	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】

重点 【39 頁】	1	継続	学校園遊具の点検及び整備修繕	○
	2	継続	AED の整備点検	○
	3	継続	地域と連携した防災訓練の実施	○
	4	継続	防災倉庫資機材の維持管理	○
	5	継続	防犯カメラの点検及び更新事業	○
	6	拡大	門・通用門への増設【8 小学校 16 台、5 中学校 9 台】	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	全校において遊具点検を行い、不良部分は修繕を実施		
	2	全校において AED の遠隔監視システムによる点検を実施		
	3	市内小中学校の全生徒に三田市総合防災訓練のチラシを配布し、見学を呼びかけた。学校と地域が実施する防災訓練に対し支援を行った。		
	4	市指定避難所となっている小中学校の防災倉庫資機材の整備・点検を実施した。(26 校)		
	5	防犯カメラについて、全小中特別支援学校、幼稚園において点検、老朽化した機器等の更新を実施した。		
6	防犯カメラについて、設置場所等精査のうえ、小中学校の門・通用門に増設した。【8 小学校 17 台、4 中学校 5 台】			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

9 9	登下校時の安全確保	担当課	教育総務課・危機管理課・子ども育成課		
取組内容 基本計画 P【70 頁】	通学路の安全点検や防犯カメラの設置などにより、安全で安心な通学環境の整備を行う。また、学校・PTA・地域・関係機関の連携による見守りを推進するとともに、「こども 110 番の家」の状況を点検し、通学路周辺の家庭や店舗のさらなる登録を推進する。				
★「こども 110 番の家」年度末設置箇所数					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
	889 箇所	898 箇所	767 箇所	767 箇所	767 箇所
R6 指導の 重点 【40 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	「こども 110 番の家」推進事業		△
	2	継続	防犯カメラ整備事業（通学路等見守り用防犯カメラ H29：200 台、R2：8 台）		○
	3	継続	交通安全教室の開催		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	2	通学路の見守り用カメラは整備済（R6 年度末時点：215 台に増設）			
	3	希望があった学校・園に対して実施した。（保育園 10 箇所、幼稚園 13 箇所、			

	小学校 18 箇所、中学校 4 箇所)			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	1	地域特性に合わせて青少協等の地元団体と連携を図る必要がある。		
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果	
	1	地域での取組方法等について、青少年問題協議会で議論する。	地域における取組主体を確立する。	
指 標		実績 (令和 6 年度)	目標 (令和 8 年度)	進捗 状況
★こども 110 番の家年度末設置箇所数		767 箇所	1,040 箇所	×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率 90%以上 100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率 70%以上 90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率 70%未満)、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「-」調査対象外

100	ICT 機器やデジタル教材の整備・充実	担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【70 頁】	子どもの学習意欲を高め、わかりやすい授業づくりを推進するため、タブレット端末や大型モニタの活用を促進し、デジタル教材の導入・整備・活用を図る。				
学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強に役に立つと答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)					
経年経過	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
小 6	新規指標	71.1%	70.2%	67.8%	実施なし
中 3		64.2%	58.3%	60.2%	
R6 指導の 重点 【40 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	GIGA スクール構想を受けて整備された ICT 機器等の整備・活用		○
	2	継続	校内通信ネットワークの整備・活用		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用する」教員の割合が増加した。			
	2	小学校 2 校でローカルブレイクアウト工事を実施した。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R8 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
指 標		実績 (令和 6 年度)	目標 (令和 8 年度)	進捗 状況	
「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT をほぼ毎日使う」と答える子ども		(小 6) 17.1% (中 3) 32.5%	小学校・中学校 ともに 90.0%	▼	

の割合（全国学力・学習状況調査）			
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	実施なし	(小6) 90.0% (中3) 85.0%	—

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「—」調査対象外

V 点検・評価委員の意見

西村委員長

(1) 令和6年度三田市教育委員会の活動状況について

定例教育委員会や協議会など22回の会議が滞りなく実施されている。対外的な会議、研修会などがコロナ前と同等の集会により顔が直に見える中で意見交流がなされ、ケースバイケースでオンラインなども活用されながら実施が続けられていることも意義がある。

教育委員の男女比のバランスも保たれている。また、学校訪問として春期・秋期で全校を訪問したり、各種学校行事や市内合同開催行事などに積極的に参加したりするなど、児童生徒や教職員の姿を直に見て実態把握に努めている。参観授業後に現場の管理職や教職員に直に指導したり意見交流をしたりするなど、現場の成果や課題に対して生の声をもとに把握する機会も設けられている。

依然として不登校、教員不足、統廃合などの大きな課題があり、さらには「主体的な学び」「現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透の道半ば」「デジタル学習基盤を効果的に利活用する」など全国で顕在化している課題などに、現場の実態や声を捉えつつ「夢を育て、人をはぐくむ学びのまち さんだ」の実現に向けて、さらなる積極的な活動を期待する。

(2) 『さんだっ子かがやき教育プラン』令和6年度施策事業の取組について

① 「確かな学力」の育成

教育研修所を中心として三田市全体（三田市学力向上推進委員会）や各校における全国学力・学習状況調査の分析を実施し、三田市では結果とともに改善策を提示し、各校においてはそれぞれの実態に基づき「学力向上指導改善プラン」を策定し授業改善に活かすなど、三田の子どもたちの確かな学力の育成に大きく寄与している。さらに、令和6年度では指導改善プランを策定して子どもたちの確かな学力によりつながる指導内容を各校に求めるなど、確かな実践である。

また、教育研修所の指導のもと個別最適な学びと協働的な学びの充実へ向けて、基盤的なツールとなるICT活用やクラウド環境を利用した授業支援ツールなどの活用方法の周知を研修により進めている。また、増員されたICT支援員が学校を巡回したり各校の派遣要請に対応したりするなど、デジタル学習基盤を効果的に利活用できる子どもの育成に向け、学校現場で教職員への支援を続けている。確かな学力や顕在化されている課題に効果的な取組といえる。今後も施設・設備・Wi-Fi環境の整備や充実とともに、教職員への研修や支援を充実させ、三田の子どもたちの確かな学力と学びを支える必要がある。

『学力向上指導改善プラン』の実践で指標による目標値を全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国値との比較において全教科+6ポイントと設定している。年度の問題傾向や学年などにより流動的な面があるが、年度によっても変わらず確かな学力の育成に向けて更なる取組の推進を図りたい。

学校司書の配置と学校図書館の利活用に関する教職員の指導力向上も上記課題を支える基盤となる。更なる学校司書の増員と学校での図書館の活用方法の研修などに努め

られたい。

② 「豊かな心」の育成

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と回答した子どもの割合は年度ごとに増加し、令和6年度で目標値を超えた。また、「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合は、年度ごとに増加し目標値まであと少しである。すべての子どもが自分を大切にし、他者との違いを認め合い共に生きようとする意欲や態度を育てるために、市教委の主導による学校現場の教職員の取組の具体化が着実に効果につながっている。

「特別の教科 道徳」や道徳教育を推進しつつ、研修の工夫などにより教職員の意識改革や子どもの自尊感情を高める実践の工夫を継続し、今後もすべての子どもたちが大切にされる三田の教育の推進へ更なる取組の質の向上に期待する。

また、「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時相談しない」と答える子どもの割合を目標値の0%に近付けるために、令和5年度よりアンケート方法で学校を介さずオンラインで直接市教委へ回答できるように変更された。更に子どもにとって相談の窓口となる教職員向けにゲートキーパーとしての心構えの研修、中学校ではセルフケア講座の実施など、様々な取組の工夫により子どもにとって相談しやすくなるよう環境整備を進めている。相談しやすい環境づくりや取組の充実はいじめの早期発見にもつながる。引き続き目標値の達成をめざし、どの子どもも相談しやすくなる環境づくりの推進をお願いする。

県の子ども多文化共生サポーターや市の外国人語学指導員の配置増により、外国人児童生徒などへの母語による学習支援や心のケア、日本語指導を充実させる取組を進めている。様々な言語を母語とする外国人が就労のため在住しており、希少言語においてはサポートできる人材が少ない。学校ではその家族の子どもだけでなく保護者との連絡や意思疎通においても難しさを抱えており、その保護者は日本での就労や生活においても困っている。今後さらに、取組の拡充を図られたい。

③ 「健やかな体」の育成

子どもたちの体力アップのための様々なサポーターを活用し取組を進められている。タブレット端末で視聴できる「キッピー体操」をはじめ、体力アップサポーター、小学校での水泳授業民間施設利用委託事業といった、専門性に優れた施設の活用やサポーターの派遣など運動やスポーツが好きという子どもの育成へ向けて体力・運動能力の向上をめざす取組が高く評価できる。引き続き取組を拡充するなど、学校現場の実態に応じて推進を図られたい。

健康な体には、体をつくる食の大切さを知り、健全な食生活を実践できるよう支援することが求められる。保護者の多忙化、生活習慣の多様化などにより食生活のバランスは乱れがちになることが多い。給食では、アレルギー対応や献立・献立表の工夫、低農薬の食材獲得の工夫や地産地消の取組など、日頃からの取組により学校での給食が守られ推進されていることに感謝したい。「三田米」の確保の工夫や地元の方々の協力の効果も大きい。地場である「母子茶」を活用したパン、黒枝豆コロケ、そして「食べチャオさんだ！」や給食の配送車の図柄など、三田ならではの多数の評価できる取組があり大切に継続してもらいたい。地場野菜の使用率としての目標値はかな

り高い設定といえるが、三田の地元の方々や農業関係者の方々の協力があってこそ成り立つといえる。子どもたちが食の大切さを考え、学ぶ機会が増え、自身の生活を考える力につながるように、今後も更に、教職員の食やアレルギーなどに関する知識の習得、対応マニュアルの充実による安全管理の徹底、家庭や地域と連携した学校保健活動の推進、健康教育の充実を図りたい。

④ 一人一人が大切にされる教育の充実

特別な支援が必要な子どもについて教育支援計画や個別の指導計画が作成され、「サポートファイル」が整備・活用されて市内関係機関との縦横連携により切れ目のない支援体制が構築されている。特別支援教育相談体制により、就学での早期からの相談や専門性を活かしたスタッフなどが配置され相談の充実が図られている。教育支援課の指導の下、校内支援体制を整備し、教職員への研修を図り取組を進めてきたことや丁寧な指導体制などの実績が、特別支援学級在籍児童生徒数の増加や通常の学級での指導・支援を要望する保護者や児童生徒の増加につながっている。三田市において特別支援教育の必要性が周知されてきた証といえ、高く評価できる場所である。

ただ、通常の学級における支援を希望する子どもの実態から丁寧に検証し、希望者の人数を制限してきてもなお学校生活支援教員が学校によっては一人で19名の子どもを担当するなどかなりハードな業務となっている。今後も支援員の人数確保、指導方法の工夫と縦横の連携をはじめ、さらには市としての施策の工夫などの取組を図りたい。

不登校児童生徒の出現率は令和5年度に続き高い。校内のサポートルームの整備、子どものサポーターの配置とともにあすなろ教室にもスクールソーシャルワーカーが配置され、不登校対策の取組が進められている。不登校対策、いじめ対応とあわせて全校配置を引き続きめざしてもらいたい。また、メタバースなどのオンラインツールを積極的に活用して支援の充実を図りたい。

⑤ 社会的自立に向けた教育の推進

「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合が小学校では目標値に近づきつつも年度ごとに調査する対象の子どもが変わると流動的な面がある。気になるのは子どもたちが「将来の夢・目標」＝《将来の職業選択・高校進路獲得》だけのよう捉えていないかということである。「在りたい社会」の中で「在りたい自分」について考えることが令和6年12月25日に文部科学大臣から中央教育審議会に出された諮問文の「自らの人生を舵取りする力」を身に付けることにつながるのではないかと考える。子どもたちの「将来の夢・目標」が、子どもたちを取り巻く大人により刷り込まれた捉えになっている可能性がないか検証し、やはり、夢や目標を大切にしたい自分や周囲とのつながり、社会を描きながら育つ三田の子どもたちであってほしいと願う。そのためにも学校で指導や支援にあたる教職員の意識改革や研修研鑽、保護者への働きかけなど、キャリア教育の本来の意義を考える機会の更なる創出に期待したい。

部活動の地域展開についても三田の子どもたちや保護者、市民にとっても大きな関心事である。着実に地域展開に向けて取組が進められている。他市町では保護者や市民が不安に思っていることが情報誌等で取り上げられている。実施場所、指導者、ト

ラブル等の指導事案の共有・連携、移動手段、学校との連携など、制度的に移行して終わりではなく、引き続き実態の確認や子どもや保護者の安心につながるように努められたい。

⑥ 幼児期の教育の充実

市立幼稚園の再編にともない、令和6年度は三田市立認定こども園みつば幼稚園が開園し、(同)ありまふじ幼稚園の増改築工事がはじまった。みつば幼稚園では長時間保育も可能となった。施設面だけでなく人材確保や教職員の研修などの面でも更なる取組の強化を進めてもらいたい。

また、幼児教育から義務教育、高等教育へと担当する部署は変わったとしても子どもたちはそれぞれの学校園で成長を続ける。幼児教育の指導案を見ると、小学校・中学校でも活かされるべき内容や気づきが散りばめられている。(前述のように)文科省は舵取りする力を身に付けることを重要視しており、幼児期に失敗を繰り返しつつ成長してきた子どもを小学校、中学校が預かり育て、高等教育・社会へとつなげていくという視点からも私立も巻き込んで学校園所連携をより強固なものにし、みんなで子どもの成長を支え、見守り、支援し続けることができる体制づくりに努められたい。

⑦ 信頼される学校づくりの推進

信頼される学校には管理職や教職員の資質・指導力の向上が重要となるが、指標にあげられている「教育研修所で研修した教員数(オンライン研修含む)」が目標値の1.5倍以上と実績を積んでいる。更に、教職員アンケートで「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合は目標値を大きく上回っている。様々な教育課題や役割・役割に応じた内容であり教職員のニーズを踏まえた研修の工夫と実践の成果として高く評価したい。

また、教職員のICTを活用した指導力の向上の取組の指標として「『教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用することができる』と回答する教職員の割合」があり、92.8%と高い数値の実績がある。上述のように研修の工夫やICT支援員を活用した効果として評価できる。その一方で、施策10『学びを支える環境の整備』でICT機器やデジタル教材の整備・充実』の指標の一つとして「『前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをほぼ毎日使う』と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)」が小6[17.1%]中3[32.5%]と非常に低い。令和5年度の授業を対象にした児童生徒への質問であることから令和6年度の実績として直結するものではないかもしれないが、他市町の学校では毎時間ICT関連機器やタブレット端末を児童生徒が使用する授業展開がされている。最近の教育において顕在化している課題として文科省が「デジタル学習基盤を効果的に利活用する」を挙げており、これから先の確かな学力の基盤ともなり、すべての子どもたちの学びの保障として推進されている。毎時間の授業でICTやタブレット端末を利活用するためには、①大型モニターの全教室配備・Wi-Fi環境の拡充、②ICT支援の拡充、③教職員の指導力の向上のための研修等の工夫、が必要あると考える。三田の子どもたちのよりよい教育環境実現のために、目標値の達成を含めた更なる体制づくりに努められたい。

アフターコロナでオープンスクールをはじめとする様々な教育活動の公開が定着し

ている。全校に設置された学校運営協議会が学校と家庭・地域と連携を進める大きな核となっている。「学校 HP のアクセス数が家庭数の 3 倍以上の学校数」が目標値の指標にあげられているが、令和 7 年度より市全体で「まなびポケット」が導入されることにともない令和 6 年度に移行措置として早期導入した学校では学校だよりや従来の配布資料がまなびポケットで確認できるためアクセス数が減った要因と考えられるとの報告があった。数年で大きく変わる可能性がある IT 関連であるため、次期教育振興基本計画の指標を考える際には留意が必要である。

ただ、情報は画像などもあるため、HP 掲載にあたっては個人情報等の保護から難しい面もあると思うが、状況が保護者や視聴者に伝わり、行きたくなる学校、通わせたい学校をめざして取組を継続してもらいたい。その場合には、管理職や教職員にとっても本来の業務に更に加わる業務となるため、人材の配置などで工夫ができるものであれば対処を図られたい。他の自治体では生徒指導事案とあわせて個人情報や学校 HP 管理として情報処理などの担当者が各校に配置されていると報道されている。一考願いたい。

留守番電話（自動応答メッセージ型）を各校に設置されたことは教職員の働き方改善やワークライフバランスの充実につながり、働きがいのある学校へ、そして子どもたちによりよい教育活動を行う場となり、高く評価できる。

⑧ 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

子どもたちが放課後や長期休業中などに安全・安心に過ごし多様な活動などを体験できるように、放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携が進められている。指標となる放課後子ども教室の開催日数には令和 6 年度は及ばないが、教室の新規開設に向けての取組や連携の調整など難しい中着実に取組が進められている。保護者などからのニーズの高い事業内容でもあるので、今後も引き続き新規開設や開設日数増、参加者数増、更には運営体制の支援方法などの取組に更に努められたい。

⑨ 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

子どもたちが本に親しむ機会や自主的な学びを支えるためには多角的な視点から連携しあい、読書活動の活性化や調べ学習などでの環境整備が必要となる。「さんだ子ども読書の日」の周知と活用の工夫、「三田市子どもの読書活動推進計画（第 4 次）」の周知と活用の工夫、その計画に盛り込まれた学校園と公共施設との連携など、担当課同士が連携し合い子どもや家庭への情報発信・配信が必要となる。

その意味でも公共施設のいくつかで借りる本の受け取り・返却ができるのは大変有効である。令和 6 年度に児童生徒用タブレット端末に図書館の蔵書などが閲覧できるように個人登録を進めたことも苦勞されていたようだが評価したい。

学校司書と図書館司書の連携、学校司書と教職員の連携、市の公共施設と学校との連携などの横のつながりを活かして子どもの学びを支える仕組みの更なる構築を図られたい。また、学校司書の全校配置に向けて更に強く進めてもらいたい。

⑩ 学びを支える環境の整備

上野台中学校と八景中学校の統合に伴う新中学校建設予定地で地元住民に説明会が開催され公表された。その後学校予定地の様々な課題への取組が進められている。校

区の保護者だけでなく市民にとっても大きな関心事となっている。三田を代表する新設校となるよう取組を着実に進めてもらいたい。

安全で安心な通学環境の整備も学びを支える大きなものとなる。「こども110番の家」の定期的な状況確認と拡充、防犯カメラの整備・設置拡大、交通安全教室の開催・運営など、学校はもとより地域の自治会、PTA 団体、青少年育成関連団体、民生児童委員、防犯協会などと連携しながら、さらなる環境整備に努めてもらいたい。

あわせて「こども110番の家」や防犯カメラの位置など、学校や児童生徒・保護者に地図上で記したものを配布・配信するなどの措置の工夫を期待したい。

また、【事業100『ICT 機器やデジタル機材の整備・充実』】の指標達成のためにも、次の整備、充実を図られたい。

- ・大型モニターの全教室配備
- ・Wi-Fi 環境の拡充
- ・ICT 支援の拡充

(1) 令和6年度三田市教育委員会の活動状況について

入学式・体育大会等による学校訪問を積極的に行い、現場の空気を直に感じている点は、評価すべき点であり継続を期待する。

学校統合などの問題も、地域・学校現場の声を聞き、進めてほしい。今後の三田市の教育の充実に期待している。

(2) 『さんだっ子かがやき教育プラン』 令和6年度施策事業の取組について

① 「確かな学力」の育成

教科担任制の推進においては、小学校の高学年だけでなく中学年への拡大も図られ、確かな学力の育成が進捗している。

学校司書の配置も進んでおり、子ども達の読書環境の充実は評価する。

② 「豊かな心」の育成

アンケートでいじめをうけた時「相談しない」と答える児童・生徒の割合が減らない状況であるが、個に応じた人間関係の構築をしている点で評価する。さらにもう一步踏みこみ、子どもたちがより身近に相談できる体制の構築を期待する。

③ 「健やかな体」の育成

幼稚園の園庭緑化を完了し、児童が裸足で走り回れる事で身体づくりにつなげている点は、評価する。

水泳授業民間施設利用委託の拡大により、生徒の運動能力向上が期待できる。今後、業務のさらなる拡大を期待する。

④ 一人一人が大切にされる教育の充実

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの市費による増員配置によって、多くのニーズに対応できている体制は、今後も継続を望む。

⑤ 社会的自立に向けた教育の推進

相変わらず『地域行事』に参加している児童・生徒の割合が低いように感じる。地域の大人とふれあい『三田』への郷土愛を高め、三田での就職・就業数を増加させる事業の拡大を期待する。

⑥ 幼児期の教育の充実

認定こども園の開園により、より低年齢の時期からの小・中学校の児童・生徒との交流を増加させ、保護者の安心感を高めてほしい。

⑦ 信頼される学校づくりの推進

HP等により地域等への情報公開が出来ている。公開の頻度も、教職員の負担増にならないように、ICT支援員を増員するなどの現場が働きやすい体制を構築することに

より増加し、より信頼できる学校ができるのではないか。

⑧ 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

PTA への加入は任意ではあるが、ここ数年加入に関しての問題が顕在化している。円滑な活動のためには、今までの活動とは変化させなければならない。昨年も指摘したが、積極的に地域との関係を深めて、地域ぐるみでの子育て環境をつくる、【PTCA】という形で地域を巻き込む検討を進められたい。

トライやる・ウィークが地域の事業所から認知され、事業所満足度があがっている。新たな事業所に展開し、地域で活躍出来る人材の育成を望む。

⑨ 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

社会教育施設の見学・体験学習は多くの学校で活用されており、評価できる。地域の伝統文化の継承には、地域との関係醸成が大切であり、学校でもその関係性を大切にしてもらいたい。

⑩ 学びが支える環境の整備

八景中学校と上野台中学校の統合中学校の候補地が発表され、作業が着実に進められてはいる。しかし、統計より少子化が進行していることが読み取れるため、その他の統廃合においても慎重かつ迅速に進める事を期待する。

(1) 令和6年度三田市教育委員会の活動状況について

令和5年度事業の課題として挙げた項目について、令和6年度は次々と実践し、効果検証に入り、改善点などを挙げ、次の段階に向かっており、そのスピード感が評価できる。子どもたちの学びが停滞しないよう、また、不利益を被ることがないよう邁進していることに感謝したい。

子どもたちのための学校、そこでは良い授業をすることが望まれる。子どもたちが安心して学び、育つことができる学校・地域・家庭づくりのために、教育委員会が包括的な支援に取り組んでいることは心強い。

三田市も、不登校・いじめ・日本語サポートが必要な外国籍の児童生徒が増加している。学校単体では対応が難しいことも多い中、教育委員会には、学校への助言だけでなく、人材配置や学校運営の支援を強く求められていることを感じる。学校が、安心して児童生徒の教育活動に取り組めるよう、教育委員会の各学校への積極的な支援や学校と市教委が早期に連携できる体制の整備を期待する。

(2) 『さんだっ子かがやき教育プラン』令和6年度施策事業の取組について

① 「確かな学力」の育成

小学校の中学年で新しく「教科担任制」に取り組み、専門性の高い授業を受けられるようになったことは、今後の授業の充実・発展も期待できる。高学年の専科指導・教科担任制について、市内で実践報告をしているのが良い。この取組が徐々に各学校へも広がっていくことを期待する。

小中一貫9年間を見通したカリキュラムの研究を推進しており、各中学校が改訂された小学校の教科書について学び、小中一貫教育の講演を聞き、中学校区での実践に繋がる工夫をしている点が良い。

② 「豊かな心」の育成

いじめを受けた時に「相談しない」と回答した理由を調査し、相談先について情報を周知し、適切な支援に繋がれたことは大きな成果である。

外国人語学指導員について、三田市の予算拡充が、確かな人材確保や県事業から支援を継続できる結果に繋がっている点が良い。希少言語の語学指導員の確保は難しいものの、多言語翻訳ツールなどを用いて児童生徒の今の学びの保障、学校生活での安心感に繋がる工夫があり評価できる。

③ 「健やかな体」の育成

水泳モデル事業の効果検証から、小学校8校が屋内プールで専門指導員から学ぶことができた。学校のニーズに対し、素早い対応ができていると評価できる。熱中症の不安が続く中、屋内施設で安全かつ専門的な学びを得る機会があることに感謝したい。

キッピー体操はホームページで活動が公開されている学校もある。曲も体操も、三田市に縁のある方々が作っていることが周知され、ふるさと三田の体操として親しみ、からだを動かす習慣づくりに繋がることを期待する。

三田産黒大豆枝豆を用いたコロケが提供されたことが喜ばしい。新商品の開発から導入までJAと協力関係にあることが良い。ふるさとを思い出す給食を食べていることは、子どもたち、保護者、地域の誇りである。

学校給食の安全について、毎年、課題を解決しており心強い。「食物アレルギーチェック用こんだて表」の改訂により、きめ細やかな安全管理が実施できるようになった点が評価できる。また、「食の安全に関する研修」も、課題であった「関係者間での連携」を行い、継続して行われており良い。

④ 一人一人が大切にされる教育の充実

不登校児童生徒への支援者を「子どもサポーター」事業に整え、配置校・配置時間の拡充を行ったことが良い。また、校内サポートルーム（別室）の環境を整備し、個に応じた支援を進めていることが評価できる。しかし、担当者（養護教諭・担当教諭）の負担過重が懸念されるため、子どもサポーターの更なる充実や専門機関との早期に連携を期待したい。

あすなる教室へ「スクールソーシャルワーカー」を配置したことが評価できる。通所支援と共に、進路選択の支援を行った実績は、対象の児童生徒や保護者の心の拠り所となり、社会的自立を支援するための具体的実践であることから、今後の継続に期待する。

あすなるe-schoolが、次のステップへ進み、生成AIを用いた対話機能の開発と実証の取り組みが今後の支援の充実に繋がることを期待する。

専門機関に相談支援を繋げる必要があることを改めて周知してほしい。教育委員会も、助言に留まらず、各学校を具体的に支援できる準備があると示すことが期待される。

⑤ 社会的自立に向けた教育の推進

トライやる・ウィークやわくわくオーケストラなど、兵庫県独自の体験教育が継続され、尽力されている県民のマンパワーに感謝したい。地域の教育力を活用しており、ふるさとを愛する心が育まれることが期待できる。いずれの体験教育も、学校で「事前から事後の学習」が必要で、学校が外部との連携を密にしていることがうかがえる。子ども達のキャリア教育充実のために今後も継続を強く望む。

小学校の英語専科教員が順調に増員され、担当者間での情報交換の機会もあり、授業の充実を図ろうとしていることが良い。

英語4技能を活かせるスピーチ大会の新規設定は、生徒たちの意欲向上、英語力の自信に繋がると期待できる。一方、大会の準備・運営が教育研修所の負担になる懸念もあり、市や民間団体などに協力を求め、誰にとっても充実した大会になることを期待する。

⑥ 幼児期の教育の充実

新しい認定こども園が開園されたことが喜ばしい。通園システム導入や長時間保育に備え、事前に研修が実施され、スムーズな運営がされており安心できる。

アウトリーチ型子育てイベントを新規に実施し、就園前児と保護者が親子で楽しめる場を提供したことは、子育て支援の推進として、所管課のサポートのもと、認定子

ども園が積極的に動いていることが分かる。家庭と学校の間を取り持つ形で、子どものいる方へ出向いていく姿勢が、保護者には心強い。活動の継続を期待する。

⑦ 信頼される学校づくりの推進

ICT 支援員を増員し、5 名体制で学校訪問の実施や、教職員への積極的な支援がなされ、増員の効果が見られており良い。

教員用端末から市の教材等のリンク集に容易にアクセスできるようになったことが良い。教科書の教材については、一般ウェブサイトにも全国から授業案が集約されている。三田市教育委員会には「三田市について学ぶ教材・情報（指導案）」が集約されることを期待する。

⑧ 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

学校支援ボランティアの活動は「学校のニーズ」に応じる。学校が、明確なニーズ・具体的な活動内容を提示することで、安心安全の確保、学習の充実度を上げることが可能となる。

教職員は異動するが、地域の活動メンバーに大きな変化はない。教職員の学校支援ボランティアへの理解不足により起こるトラブルが、子どもの不利益になることは避けるべきである。そのため、年度初めに学校単位で学校支援ボランティアについての研修をし、ボランティア導入の意義、協働の仕方、教育的効果について学び、地域と連携する能力の向上を望む。

「トライやる・ウィーク」は事業所の協力が不可欠である。推進協議会の意見を受け、市内の事業所に周知の働きかけをした取り組みは良い。事業所は好感触であり、今後も子どもの育成活動に協力いただけるよう連絡を密にとり、学校支援ボランティアも加えて、学校と地域が連携していくことを期待する。

⑨ 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

電子図書を含む図書の貸出方法、図書館見学、移動図書館について活用されることを望む。見学については、図書館側にはプログラムがあり、実施校には授業案がある。学校によっては学校支援ボランティアの協力を得る計画書がある。それらのデータを活用すれば、図書館見学の新しい計画を立てることが容易になり、利用の推進にも繋がる。

学校訪問コンサートが市内の全小学校で開催されたことが喜ばしい。文化芸術の鑑賞機会がどの児童にも与えられるよう、継続開催の支援を願う。

⑩ 学びを支える環境の整備

学校給食の施設や設備の老朽化に対し、修繕計画の作成に着手したとのこと。安全な給食の提供と、職員の健康・安全のためにも、順調に進むことを願う。

各校に学校給食の受入業務従事者が 1 名配置されているが、給食室（配膳室）の環境を確認する機会を、年数回設けることを希望する。

予算内で地産地消に取り組むため、学校給食の調理法などを工夫する努力を大きく評価したい。

大規模校でのローカルブレイクアウト工事が実施され、学習がスムーズになってい

ることが良い。ニーズに応じた ICT 研修も実施され、良い授業・良い支援に繋がる
ことが期待できる。

通学路の安全確保について、保護者や近隣住民から直接学校に問い合わせが入ることによる
教職員の負担が懸念される。三田市には、道路・公園の不具合通報システムが設けられている
ため、市民・教職員への周知をお願いしたい。

VI 参考資料

1 令和6年度三田市教育委員会会議(議案)

番号	件名	議決月日		
1 15	令和6年度三田市立学校教科用図書採択に関する基本方針、及び三田市教科用図書選定委員会への諮問について	6	4	24
2 16	令和6年度一般会計6月補正教育予算案に関する原案の決定について	6	4	24
3 17	令和6年度三田市教科用図書選定委員会委員の委嘱と任命について	6	4	24
4 18	三田市立図書館の電気設備修繕にかかる休館及び特別整理期間について	6	4	24
5 19	三輪小学校大規模改修工事(I期)請負契約の締結について	6	5	29
6 20	三田市在住外国人教育推進委員会の委員の委嘱について	6	5	29
7 21	教育委員の辞職に係る教育委員会の承認について	6	5	29
8 22	職員の分限処分について	6	5	29
9 23	志手原幼稚園増築及び大規模改修工事請負契約の締結について	6	5	29
10 24	「三田市在住外国人教育基本方針」の改定について	6	6	27
11 25	職員の分限処分について	6	6	27
12 26	三田市立認定こども園条例(令和5年三田市条例第27号)の一部を改正する条例の制定に係る原案の決定について	6	6	27
13 27	三田市立認定こども園条例施行規則(令和5年三田市教育委員会規則第8号)の一部を改正する規則の制定について	6	6	27
14 28	三田市教育委員会会議における議席の指定について	6	7	29
15 29	職員の分限処分について	6	7	29
16 30	令和6年度一般会計9月補正教育予算案に関する原案の決定について	6	7	29

17	31	三田市附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定に関する原案の決定について	6	7	29
18	32	令和7年度使用三田市立学校教科用図書の採択について	6	7	29
19	33	令和6年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について	6	8	27
20	34	三田市学校給食運営協議会委員の委嘱について	6	8	27
21	35	令和7年度使用三田市立特別支援学校高等部教科用図書の採択について	6	8	27
22	36	職員の分限処分について	6	9	26
23	37	令和6年度一般会計12月補正教育予算案に関する原案の決定について	6	10	28
24	38	三田市附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定に関する原案の決定について	6	10	28
25	39	職員の分限処分について	6	10	28
26	40	令和7年度公立学校教職員異動方針について	6	11	27
27	41	職員の分限処分について	6	11	27
28	42	通学費補助規則の一部を改正する規則の制定について	6	11	27
29	43	職員の分限処分について	6	11	27
30	44	令和7年度一般会計当初教育予算案(要求)に関する原案の決定について	6	12	23
31	45	職員の分限処分について	6	12	23
32	1	職員の分限処分について	7	1	28
33	2	令和6年度一般会計3月補正教育予算案に関する原案の決定について	7	1	28

34	3	職員の分限処分について	7	2	26
35	4	三田市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程の一部を改正する訓令の制定について	7	2	26
36	5	三田市生徒指導等問題対策委員会委員の委嘱について	7	2	26
37	6	校長等人事について	7	3	12
38	7	職員の分限処分について	7	3	27
39	8	三田市教育委員会事務局の組織及びその事務管理に関する規則の一部を改正する規則の制定について	7	3	27
40	9	三田市教育委員会文書取扱規程の一部を改正する訓令の制定について	7	3	27
41	10	三田市招致外国語指導助手任用規則の一部を改正する規則の制定について	7	3	27
42	11	学校園医・学校園歯科医及び学校園薬剤師の解嘱と委嘱について	7	3	27

